

事項四 安徽直隸兩派間抗戰ニ関スル件

三〇五 五月五日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

靳雲鵬内閣今暫ク余命ヲ持続スベキモ政局ハ
当分混乱ヲ免レズトノ観測報告ノ件

第四〇四号

(五月五日接受)

往電第三四八号其後ノ状況ニ関シ各方面ノ情報ヲ綜合スル
ニ安福系ニアリテハ此際一途ニ靳内閣ヲ顛覆セントノ希望
ナルヘキモ外交問題借款問題(之ハ「ラモント」ノ退去ニ
依リ一先ツ中断ノ姿ナルヘキモ)督軍廃止問題學生運動及
労働者煽動問題乃至南北和議問題等更ニ重要ナル問題アリ
テ何人ト雖進シテ此ノ難関ヲ控ヘタル後継内閣ヲ引受クル
者ナキト又一面靳総理ニ於テハ何トカ督軍團擁護ニ依リ南
北和議ヲ成立セシメタル後屑ヨク退職スルカ又ハ局面ヲ展
開シテ内閣ヲ持直サントノ希望ヲ懐キ居ルトノ経緯上今暫
ク余命ヲ持続スヘキ形勢ナリ然レトモ西南政府ノ分立シテ
併カモ其ノ実力派中ノ向背モ頗ル不一致ナル今日殊ニ上海
或ハ雲南方面ニ於テ別ニ一軍政府ノ成立シタルヤノ観アル

註1 小幡公使四月十六日發第三四八号省略セルガ該電ハ靳内
閣ハ長持チセザルベシトノ情報ヲ報告セルモノナリ

2 小幡公使三月十三日發第二五七号末段左ノ通

所謂現在ノ支那ハ所謂群雄割拠ノ有様ト見ルモノ不可無カ
ルベク加フルニ學生團又學業ヲ曠廢シテ安リニ政客操縦
ノ下ニ妄動狼藉ヲ極メ法律ヲ無視シ秩序ヲ破壊シ政府ニ
於テ之ガ取締ノ声ノミアリテ實際ノ措置徹底セズ斯ク觀
シ来レバ中央政府ノ無勢力、地方督軍ノ跋扈學生其他無
頼漢ノ横行ハ内地土匪ノ跳梁ト相俟ツテ全国殆ド無秩序
無警察ノ情態ニ在リト云フモ過言ニ非ザルベシ本使ノ觀
ル所ヲ以テスレバ前清末以來支那ガ今日程不秩序無統一
ノ情態ニ在リタルコト之レ無カルベク從ッテ現代ノ支那
政治家ヲ以テシテハ何人ガ出ヅルモ到底此ノ情態ヲ收拾
シテ人心ヲ新タニシ秩序ヲ立テ直シ以テ國政ヲ改革シテ
整理ノ実ヲ挙グルノ望無ク結局關係各國結束シテ強力ナ
ル干涉ノ下ニ整理ヲ強制スルカサモ無クバ袖手傍觀時局
ノ推移ニ放任シ徐ニ支那人ノ自省覺醒ヲ俟ツノ外非ザル
ベシト思料セラル

三〇六 五月十日 在天津船津總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

直隸省議會議長ヨリ日中關係改善ノ為中国各
省ノ代表二三名宛ヲ選出シ日本訪問ノコトト

四 安徽直隸兩派間抗戰ニ関スル件 三〇六

際南北ノ和議統一ハ到底其ノ望ナク殊ニ差当リ北京政府ノ
最モ困難トスルハ其ノ財政ト外交問題ナルヘク既ニ新借款
團進行ノ停頓シタル今日如何ナル方法ニ依リ目前ノ急場ヲ
切抜クヘキヤ外交問題ニ至リテハ往電第三八五号及第三九
七号ノ次第モアリ山東問題ハ此際日本ト直接交渉ヲ開始セ
サルヘキ旨ヲ声明シ以テ或ハ一時ヲ緩和シ得ヘントスルモ
其他ノ重要各問題ト共ニ南北統一内閣ノ成立セサル限り
到底解決進行ノ見込ナカルヘシ斯ク觀シ来レハ問題ハ依然ト
シテ南北和議ニ帰著スル処現ニ徐樹錚ノ如キハ五月一日往
訪ノ一邦人ニ對シ強固ナル北方内閣ノ成立ヲ以テ之カ前提
ナリトシ段祺瑞ノ出テテ内閣ヲ組織セサル限り何人ノ出ツ
ルモ到底南北ヲ統一シ政策ヲ進行シ内政外交問題ヲ解決シ
能ハスト語り居タル趣ナルモ是レ安福系徐一派ノ段本位ノ
理想ニ過キサルヘク其ノ實現ニハ各方面幾多ノ故障モアル
ヘク要スルニ支那ノ政局ハ当分紛亂動搖無為無能タルヲ免
レサルモノト観測スルノ外ナシ往電第二五七号末段ト相參
照アリタシ

シ度旨申出ノ件

第八一号(極秘)

(五月十二日接受)

直隸省議會長辺守靖五月十日日本官ヲ來訪シ平素ノ深交ニ顧
ミ本日ハ時局ニ関シ腹藏ナキ意見ヲ交換シタシト前提シ是
迄自分ハ一部日本人ニ排日派ナル如ク誤解サレ居ルコトモ
承知シ居ルガ其ハ自分ノ職掌柄ヲ々右ノ如キ誤解ヲ招ク場
合アリタルニ依ルコト勿論ナリ然シ斯クノ如キ誤解ハ何時
カ自然ニ消滅スル時期アルベシト信ジ特ニ弁解ノ勞ヲ採ラ
ザリシ次第ナルガ自分ノ觀ル所ニ抛レバ内政、外交種々ノ
行懸リ上日支ノ關係ガ目下甚タ面白カラザル状態ニ在ルモ
是ハ一時の現象ニシテ日支兩國ハ其ノ存立上到底離ルベカ
ラザル運命ヲ有スルハ申迄モナク而シテ現下ノ如キ形勢ヲ
馴致シタル原因ハ日支間ノ關係三分、支那自身即チ内政上
ノ關係七分位ヲ占メ居レバ現在ノ形勢ヲ一變シテ日支ノ關
係ヲ再ビ円満良好ナラシムルニハ支那政治家ノ努力如何ニ
依リ之ヲ實現セシムルコト左迄難事ニアラザルベシト信ズ
自分ハ過般曹督軍ガ非公式ニ北方八省ノ會議ヲ保定ニ催シ
タル際世界ノ大勢ヨリ推論シテ日支ノ提携必要ナル旨ノ意
見ヲ述ベタル処曹督軍ハ勿論列席シタル各省代表何レモ贊

四五三

成ヲ表シタリ兩三日前曹督軍ハ更ニ自分ヲ招キ再ビ本件ニ
関シ協議ヲ擬ラシ漸次具体的弁法ヲ講ズルコトニ決シタル
ガ自分ハ先ヅ第一着手トシテ各省ヨリ代表二三名宛ヲ選出
シ日本ニ赴キ各地視察ト同時ニ朝野ノ有力者ト意見ヲ交換
シ次テ兩國国民意思ノ疏通ヲ図ルコト而シテ右代表ハ或ハ
省議會議長乃至議員中ヨリ選ブカ或ハ地方ノ名望家中ヨリ
選ブカ地方ノ事情に依リ適宜之ヲ選出スルコト又愈々実行
スル場合ハ直隸、奉天、吉林、黑龍江、山東、河南、江蘇、
江西、湖北、山西等ノ十省ハ之ニ参加スルナラント信ズ時
宜ニ依リテハ広東、広西、四川ノ三省亦加入スルヤモ計リ
難シ就テハ成ル可ク最近ノ機会ニ於テ小幡公使ノ本件ニ対
スル意嚮ヲ探ラレ度シト述ベ尚明日頃趙鎮守使(督軍參謀
長兼任)ハ曹督軍ノ旨ヲ受ケ貴官ヲ來訪スルヤモ計リ難シ
ト附言セリ

辺ハ馮国璋ノ死後直隸派ノ勢力ヲ糾合シ最近庚申俱樂部ナ
ルモノヲ組織シテ安福俱樂部ニ對抗セントシ着々実行中ナ
リ彼ハ之迄英米ノ勢力ヲ利用シテ日本ニ對抗セントスル如
キ傾向アリシモ之又余リ意ノ如クナラザル為ニヤ最近大イ
ニ我が方ニ接近セントスル模様アリ彼ハ多年省議會議長ト

三〇八 五月十五日 在中國小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

靳總理病氣ニ付薩鎮冰ヲ臨時總理兼任トスル

旨公布ノ件

(至急)

第四二七号 (五月十五日接受)

靳雲鵬病氣ニ付十日ノ休養ヲ許ス旨ノ大總統指令及薩鎮冰
ヲシテ國務總理ヲ臨時兼任セシメ羅開榜ヲシテ陸軍部長ヲ
代理セシムル旨ノ大總統令五月十四日附ニテ公布セリ

三〇九 五月二十一日 在中國小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

段祺瑞ト張作霖曹錕等トノ相剋ニ依リ段派ハ

曹軍攻撃ノ為參戰軍ノ出動準備ヲ始メタル趣

報告ノ件

第四四八号(至急) (五月二十二日接受)

今ヨリ凡ソ一ヶ月前ナリシト記憶ス靳雲鵬ガ坂西ニ対シ段
祺瑞ノ政策又々武断的ニ傾カントスル趣アルヲ慨嘆シタル
趣ノ処昨夜或確實ナル筋ヨリ承知セル所ニ抛レバ最近段派
ニ於テ兼テ張作霖曹錕及李純等ガ南北相呼応シテ段ノ勢力

シテ当地官民間ニ相当勢力ヲ有シ居ルモノナレバ此ノ際之
ヲ利用シテ排日風潮ヲ緩和セシメ兩國国交ノ親善ヲ図ラシ
ムル亦一策ナランカト思料セラル何レ兩三日中ニ北京ニ出
張シ詳細在支公使ニ面接ノ上其ノ指揮ヲ受ケテ行動ス可シ
予メ御含置ヲ請フ

尚北京出張ノ件御許可アリ度シ

在支公使へ郵送セリ(奉天中継) 大正九年五月十一日前一

〇、〇〇)

三〇七 五月十二日 在中國小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

大總統ハ靳總理ノ辞表ニ対シ十日ノ休暇ヲ与

フルコトニ内定セル旨ノ情報報告ノ件

(番号脱)

五月十一日大總統府側ヨリ出テタル確實ト認メラルル情報
ニ依レバ靳總理ノ辞表ニ対シ大總統ハ十日ノ休暇ヲ与ヘ其
ノ間薩海軍總長ヲシテ總理ノ職ヲ代理セシムルコトニ略々
内定シ右辞令ハ多分一兩日中ニ発表セラルヘキカト思ハル
トノコトナリ尚内探ヲ遂クヘキモ不取敢

打破ノ為一大鉄鎚ヲ与フルノ計画ヲ廻ラシツアルコトヲ
察知シタルノ結果其ノ計画ノ未ダ熟セザルニ当リ段派ヨリ
機先ヲ制シ先ヅ以テ呉佩孚軍ノ掃北セザルニ乗ジ曹錕ノ軍
ニ一撃ヲ与フルノ必要ナルニ鑑ミ兩三日來晝夜兼行ニテ參
戰軍出動ノ準備ニ取り懸リ総司令部ノ編成等ヲモ計画スル
等宛然出師準備ト外考フルヲ得ザル趣ナリ尚真偽明カナラ
ザルモ張作霖モ窃ニ兵ヲ山海關方面ニ増派シツツアリトノ
噂モアルノミナラズ過日奈良中将來遊ノ砌徐樹錚ハ同中將
ニ対シ段派援助ヲ懇願セリト伝ヘラルル一方昨今曹錕ガ俄
ニ思ヒ立チタル如ク日支親善ヲ唱ヘ船津総領事ニ対シ懇懇
ナル挨拶ヲ寄セタルガ如キ想像ノ仕様ニ依リテハ彼レ是レ
魂胆ノアルコトニ非ズヤトモ思料セラル万一右ノ如キコト
ガ事実トシテ現ルルニ至ラバ北洋ハ戦乱ノ巷トナリ秩序ハ
今日以上ニ破レ再ビ收拾シ難キニ至ラント懸念セララルモ
今日ニ於テハ尚噂ニ止マルガ故ニ徐ニ時局ノ推移ヲ注視ス
ル外非ザル可シト信ズ然シ何レニシテモ參戰軍ノ出動準備
ハ疑ナキ事実ナルガ故ニ禍乱ヲ未然(脱)ノ見地ヨリ此ノ際
右ノ風聞ヲ指摘シ參戰軍ハ内争ニ使用セズトノ予テノ声明
ニ依リ一応外交部ノ説明ヲ求メ置クノ必要ナキヤ尤モ右ノ

場合ニハ張作霖及曹錕ニ対シテモ何等カノ警告ヲ与フルノ必要アル可シ

三一〇 五月二十四日 在奉天赤塚総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

張作霖ノ段祺瑞曹錕間斡旋成功セル旨ノ内話

報告ノ件

第一七一号

(五月二十五日接受)

昨夜本官張作霖ト会見ノ際張ハ曰ク目下北京ニ於ケル内閣問題ニ就キ段祺瑞ト曹錕トノ折合悪シク中央政界ヲ混乱セシムル虞アルニ付自分ガ其中間ニ立チテ斡旋ヲナシタル結果今回兩派ノ間ニ妥協成立シタリト語り頗ル得意ノ色アリタルガ右妥協ノ結果次回ノ大總統ニハ段祺瑞ヲ筆グルコトニ決シタルモノノ如シ委細探查ノ上追テ電報ス可シ在支公使ヘ転電セリ

三二一 五月二十五日 在中國小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

靳雲鵬總理辞表提出後ノ後継者問題ニ関スル

徐大總統段祺瑞等ノ思惑ニ関シ報告ノ件

第四六八号

(五月二十六日接受)

ナリ將タ又本月二十五日船津総領事ガ段派ノ中堅トモ目ス可キ王郵隆ヨリ聞キタル所ニ依レバ周樹模ハ総理タルノ色氣十分ニシテ徐總統之ヲ援助スルニ拘ラズ安福派ノ強硬ナル反對アリ又段祺瑞モ此際徐總統ヨリ一任アラバ内閣組織ヲ辞セザル考ナルモ如何ニシテモ徐ハ段ヲ出スヲ好マズ旁々政局ハ三方睨合ノ状況ニテ如何落着キヤ不明ナル趣ナリ(廿五日)

上、広、漢、奉天ヘ転電セリ
天、濟、南京ヘ郵送セリ

三二二 五月二十七日 在中國小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛

吳佩孚軍南方ヨリ直隸ニ引揚及吳ノ第三師長

罷免問題ニ関シ報告ノ件

機密第二二二号

(六月四日接受)

大正九年五月二十七日

在支那

特命全權公使 小幡西吉(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

吳佩孚引上問題ト吳ノ地位ニ関スル件

四 安徽直隸兩派間抗戰ニ関スル件 三二二

内閣改造問題ニ関シテハ曩ニ往電第四一八号以下各号ヲ以テ報告ニ及ビ置キタル処靳總理休暇期限ハ一昨二十三日ヲ以テ満了セルニ拘ラズ後継内閣ハ今以テ何等ノ進捗ヲ見ズ問題ハ益々錯綜紛糾シテ近ク解決ノ見込ナク旁々善後ノ計画ヲ案出スル為靳總理ニ対シテ更ニ十日ノ休暇ヲ与ヘタリ元来今回ノ内閣問題ハ煎ジ詰ムレバ段祺瑞ト靳雲鵬ノ不和ニ起因シタルハ勿論ニシテ靳ガ段派ト徐世昌ノ間ニ板挾ミトナリ而モ従来ノ情誼上段ニ背クニ忍ビズ遂ニ已ムヲ得ズ辭職ノ決心ヲナスニ至レルモノノ如クナル処一方徐總統ハ万一靳ノ辭職止ム無シトスレバ寧ロ多年ノ親交アル周樹模ヲ之ガ後継タラシメント希望シタルモ安福派ニ於テハ本来今一回段祺瑞ヲ出馬セシムルノ腹案ヲ有スルヲ以テ表面周ノ内閣組織ニ同意ヲ表シ乍ラ裏面ニ於テハ彼此ト種々難題ヲ持チ掛ケ居ル為周ニ於テモ容易ニ内閣組織ヲ引受ケ兼ね居ルノ状態ナリ從ツテ内閣問題ハ目下ノ形勢ニテハ靳ガ居据リトナルカ周樹模出ヅルカ將タ又再び段出馬トナルカ何レトモ見極メ全ク付カズ尚序デナガラ本月二十四日坂西ガ靳ニ面会ノ節ニハ靳ハ断然再び就職セザル旨確言セル趣ナルモ世間ノ噂ニ依レバ靳ニハ今尚相当ノ色氣アリトノコト

本件ニ関シ五月二十四日辺防軍參謀長傳良佐ハ西田通訊官ニ対シ吳佩孚ノ引上問題ニ付キ世上種類ノ謠言アルモ曹錕ハ特ニ參謀ヲ湖南ニ派シテ吳軍引上途中ニ紛擾ナキ様打合せ旁監視セシムルコトナリ又元来第三師長ハ曹錕ノ兼任ニシテ前年第三師ヲ南方ニ出動ノ際吳佩孚ヲ署第三師長ニ任シタルモノニシテ吳ハ今尚第三師長代理ノ地位ニ在リ依テ第三師ノ直隸ニ引上ケ後ハ吳佩孚ノ署第三師長ノ地位ヲ免スルコトニ曹錕ヨリ段祺瑞ニ申出アリ曹ト段トノ間ニハ右ノ了解アリ從ツテ第三師直隸ニ引上後ト雖モ吳佩孚サヘ第三師ノ指揮權ヲ有セサルニ於テハ直隸ニ於テ何等動揺ヲ来スコトナカルヘシト述ヘタル趣ニ有之候モ第三師直隸ニ引上後傳ノ内話ノ如ク果シテ曹錕カ吳佩孚ノ署第三師長ノ地位ヲ免スルヤ否ヤハ頗ル疑問ナリト被思考候本件ニ関シ四月下旬陸榮廷密使鄭垂ノ奉天ヨリ帰燕後西田通訊官ニ対スル内話中ニ左ノ一節アリタル趣ニ有之候

奉天ニ於テ吳光新カ張作霖ニ面会シタル翌日自分ハ張作霖ニ面会シタルニ張曰ク昨日吳光新来リ中央ニ於テハ吳佩孚ハ其内免職シ追テ場合ニヨリテハ曹錕ノ直隸督軍ノ地位ヲ解クヘシトノ意ヲ漏ラシタリトテ張ハ机ヲ拍キ段派ハ專横

ナリトテ憤慨シ居リシカ張ハ參謀長秦華ヲ北軍追悼會ニ列席ノ為メ保定ニ派シタル際右ノ次第ヲ曹錕ニ伝ヘシメタリ云々

次テ本月上旬西田通訳官姚震ト会谈ノ節當時新聞紙ニ掲載セル呉光新ノ呉佩孚反對通電ニ談及シ支那友人ヨリ伝聞スル所ニ依レバ呉光新カ張作霖ニ面会ノ際政府ハ呉佩孚ヲ免職シ場合ニヨリテハ曹督軍ノ任ヲ解カムトノ意アリト漏ラシタル為メ張作霖カ憤慨シ居タリトノ事ナルカ果シテ斯カル説アリヤト問ヒタルニ姚震ハ左ノ如ク答ヘタル趣ニ有之候

呉光新カ張作霖ニ面会シタルハ事実ナルモ張作霖ト段派トノ關係カ一年前ノ如キ關係ナラハ兎モ角現時ノ如ク段祺瑞ト張作霖トノ間ニ隔意アル際呉光新復令愚ナリト雖張作霖ニ斯カル意ヲ漏ス筈ナシ尤モ張作霖ハ策士ナル為メ呉光新カ張作霖ニ面会シ呉佩孚ニ對シ不滿ノ意ヲ漏シタルヨリ段派ト曹錕トノ離間策ノ一端トシテ張作霖ヨリ斯ク言ヒ振ラシ居ルヤモ難計シ云々

之ヲ要スルニ呉佩孚ノ引上問題ト吳ノ地位トハ今後ノ政界ニ種種ナル影響ヲ来スヘキニ付本件ニ関スル段派ノ意向尙(三)南北講和ノ議漸次熟シツアル時機ニ際シスル大軍ノ出動ヲ準備スルハ南方ノ誤解ヲ招キ南北妥協ノ進行ニ障害ヲ来ス因トナラザルヤ何若シ万一斯ル大軍ノ出動ヲ要スルトセバ少クモ予メ北方各督軍等ノ軍事關係者ニ於テ慎重ニ研究ノ上決定シ然ル可キ筋合ナラズヤ等五項(第五項ハ失念セリト孫云ヘル由)ニ亘リ詰問的質問電報ヲ寄セ来リ段ヨリハ之ニ對シ未ダ返電ヲ發セズ又辺防軍出動ニ関シテハ外間彼此取沙汰アルヲ以テ段派ノ會議ノ節之ヲ討議シタル処中央政府ノ威信上必要ナル場合ハ辺防軍ノ動員又已ムヲ得ズトノ議論多カリシモ曹汝霖ハ考量ヲ要ス可シトテ之ニ反對シ遂ニ曹ヲシテ段祺瑞ニ其ノ意見ヲ伝ヘシムルコトト為リ段モ目下考量中ナル由伝聞セリ尤段ハ五個師団出動準備命令ハ未ダ取り消サザルモ特別ノ事情發生セザル限り何トカ調停セラレ戦乱發生セズシテ治マル可シト考ヘラルル旨述べタル趣ナリ

上海、広東へ転電セリ
天津、漢口、濟南、奉天、南京へ郵送セリ

註 陝西土匪ノ為五個師団動員ノ件ニ就イテハ小幡公使五月十二日發電報第四五一号中ニ左ノ趣旨ノ報告アリ

参考迄ニ此段報告申進候也

本信写送付先 上海 天津 広東 奉天 漢口 南京

長沙

三二三 五月二十九日 在中國小幡公使ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

段祺瑞曹錕間ノ關係改善シ時局ノ緊迫稍緩和

セル旨報告ノ件

第四八三号 (五月二十九日接受)

内閣問題ノ近況ニ関シテノ略々往電第四六八号ノ通ニテ今以テ何等ノ進捗ヲ見ズ何レニシテモ周樹模内閣組織殆ド不可能トスルニ一致セリ陝西土匪討伐ノ為五個師団動員ノ件ニ関シテハ張作霖ノ調停態度等ニ依リ其後形勢著シク緩和セル模様ニ見ユ將又呉佩孚引揚問題モ段祺瑞ト曹錕トノ間ニ相当了解相付キタルモノノ如ク從而時局ハ前電報告ノ當時程甚シク切迫シ居ラズ五月廿八日孫潤宇ノ西田ニ内話セル所ニ依レバ最近張作霖ト段祺瑞ト電報ノ往復アリ張ヨリ段ニ對シ(一)五個師団動員ハ大總統ノ面諭ニ依ルトアルガ之果シテ大總統ノ真意ナリヤ(二)陝西土匪ハ大半鎮圧セラレタルニ五個師団ノ如キ大部隊ノ動員ヲ準備スルノ必要アリヤ

「段祺瑞ガ予テ兵力ヲ動かスノ意ヲ有シ其機ヲ待チ居リシ際恰モ陝西督軍ヨリ土匪討伐ノ為増援ヲ中央ニ電請シ来リ斬總理ハ徐總統ト協議ノ上段督辦ニ相談ノ機會ヲ捕ヘ段ハ容易ニ之ニ同意シ大總統命令ノ下ニ出兵ノ口実ヲ得密令ヲ第九師第十三師第十五師及辺防軍第一師第三師都合五師ニ下シ出動準備シタルモノノ如シ」

三二四 六月三日 在北京坂西少將ヨリ 上原參謀總長宛(電報)

斬總理ノ留任辺防軍使用等時局ニ関シ段祺瑞

ノ内話報告ノ件

坂極秘電三二二号 (六月七日外務省写接受)

昨二日団河ニ段祺瑞ヲ訪フ談話ノ要旨在ノ如シ

一、斬總理ニ付テ

斬ハ素ヨリ總理トシテ不適任ナリト思ヒタルモ確乎タル方針下ニ諸政ヲ裁断セバ可ナリト信ジ其就任ニ方リテハ自ラ總統ノ命ヲ奉ジ各省督軍ニ其範ヲ垂レヨト激励シタルシガ由來彼ノ性質濃厚ニ過ギ從テ諸事優柔不斷ニ流レ遂ニ中央ノ威信ヲ失スルニ至レルト共ニ目下ノ健康状態ハ再ヒ總理ノ任ニ就ク能ハサルベシ

予ハ由来武断解決主義ナリシガ時勢ノ推移ハ一時不可ナルヲ知リ最近陝西、四川擾亂シ吳佩孚ノ撤退ハ湖南ノ紛擾ヲ来シツツアルヲ以テ予ハ政府ニ対シ武力解決ノ要アラバ自ラ起テ其指揮官トナリ使用軍隊及軍費ハ能ク自ラ各地方長官ニ命ジテ準備セシムルコトヲ得ベシト主張セル次第ナリ

三、辺防軍使用ニ就テ

段ノ南征ニ不同意ヲ唱フル事ナク唯辺防軍ヲ使用スルノ不平ヲ唱ヘタル小官ノ質問ニ対シ彼曰ク人馬ノ移動ハ行フモ主義トシテ辺防軍ノ現状ハ之ヲ保持スベキニ依リ安心アリタシ云々ト

四、軍事協定ニ就テ

輿論全体ハ予ニ於テ多く顧慮セザルモ協商国軍隊既ニ撤退シ支那軍モ漸次国境内ニ撤退シツツアル次第ナレバ在西北利貴国軍隊ニ不便ヲ感セシメザル以上軍事協定ノ形式ヲ取消スコトハ双方ニ利アリト考フ

要スルニ斬ノ留任ハ段ノ充分ナル了解ナキ以上困難ナルベク段ノ武力解決ハ坂極秘電三〇張作霖ノ軍費支出承認等ヲ算中ニ置キテノ事ナルモ左右策士ノ陰謀ト自己声望ノ過信

其不可ナルヲ論ジ段祺瑞ノ武力の解決ニ不同意ヲ述ベ縱令吳ガ南方ト通ジタリトスルモ是ヲ以テ直ニ彼ノ軍隊ヲ討伐スルノ理ナシト述ベ且ツ輕卒ニ兵ヲ動カスノ不利ナルヲ語レリ湖南ノ処置ニ就テハ張督軍ヲシテ是ニ当ラシメ吳佩孚等ノ行動ニ咎ムベキモノアレバ先ツ曹錕ヲ責ムベシト

三、軍事協定問題

前電段祺瑞ノ意見ハ全ク同意ナリト

四、山東問題

彼ハ過日ノ回答文ニ似タル意味ヲ語リシ故小官ハ大ニ支那ノ誤謬ヲ説キ我撤兵ヲ希望セバ支那自ラ模範的警察ヲ組織スル必要ヲ述ベタルニ彼ハ誠ニ然リト答ヘ機ヲ見テ田督軍屈省長ニ通電スベシト

以上大總統ノ談ヲ昨二日段祺瑞ノ言ト对照シ兩者性格ノ相違ヲ表ハンテ余蘊ナン徐ハ和平主義ヲ持シ八方ニ意ヲ用ヒ責任ヲ回避セントスルガ如キモ段ハ策士ニ担ガレ自己ヲ過信シ武力統一ヲ計ラントシツツアリ而シテ兩人等シク辺防軍ヲ其内争ニ結ヒザルコトヲ解シ軍事協定ニ対スル意見亦同ジ就中帝國ト離ルベカラザル關係ニアルヲ知ルノ程度ハ

トニ動かサレアルノ嫌アリ而シテ段自ラモ輕拳ヲ戒メアルノ状ナレバ直隸安徽兩派ノ衝突モ亦容易ニ演出シ得ザルベシ辺防軍三師ヲ内争ニ使用スル能ハザル件ハ善ク了解シアルガ如ク又軍事協定問題ハ其ノ取消ニ依リ自派ノ立場ヲ有利ナラシメ南北和議進捗ニ効果ヲ及ボスモノト感シアルガ如シ詳細筆記報告ス

三二五 六月三日 在北京坂西少將ヨリ 上原參謀總長宛(電報)

後継内閣辺防軍出兵問題等時局ニ関スル徐大

總統ノ内話報告ノ件

坂極秘電第三三三三 (六月七日外務省写接受)

三日大總統ト会见談ノ要旨

一、内閣問題

予(大總統)ハ後継内閣ノ速決ヲ望ミアルガ周樹模ノ内閣組織ニ関シ過日来會統備ヲシテ尽力セシメタルモ国会通過ノ見込立タズ(以下電文不明)ノ如シト

二、辺防軍出兵問題

徐總統ハ出兵ノ真目的ガ陝西ニアラズ吳佩孚撤兵ニ関スルコトヲ述ベ且ツ出兵ハ目下ノ財政及輿論、民情上ヨリ

共ニ深シ唯对内政策ニ付キ意見ヲ異ニスルノミ而シテ此ノ兩人ヲ一致セシメザレバ支那ノ統一ハ望ムベキニアラズ帝國ハ此際徒ラニ彼此相隔離セシメザルコトヲ努ムル事肝要ナリ委細筆記報告ス

三二六 六月八日 在広東太田總領事ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

段ガ辺防軍ヲ陝西四川湖南ニ派遣スルハ辺防

軍組織ノ趣旨ニ反スル旨日本政府へ申入方温

軍政府外交部長ヨリ在中国日本公使へ要請ノ

件

第一〇四号 (六月九日接受)

本官発在支公使宛電報

第八〇号

当地軍政府外交部長温宗堯ヨリ昨七日附ヲ以テ左記要領ノ次第閣下ニ伝達方本官宛書面ヲ(脱)

曩ニ日本ガ段ノ辺防軍組織ニ対シ武器彈藥ヲ供給セルトキ支那輿論ノ反対激シカリシガ結局日本ハ辺防軍ハ支那ガ外敵ヲ防禦スル為ニノミ使用ス可キ了解ノ下ニ本件供給ヲ為シタルモノナルコトヲ在北京各国公使ニ通告シタル結果民

論鎮靜セリ最近伝フル所ニ依レバ段及安福派ハ边防軍ヲ陝西、四川、湖南ニ送ルコトニ決シタル由ナル処抑湖南事件ノ如キハ単ニ地方ノ問題ニシテ南北ノ平和ヲ破ルニ至ルモノト思ハレズ然ルニ段ガ边防軍ヲ派遣スルニ於テハ日本ノ声明ハ破壊セラレ内乱ハ長引キ内外貿易ハ更ニ打撃ヲ蒙リ事件頗ル重大ナルヲ以テ閣下ヲ煩ハシ日本政府ニ対シ日本当初ノ約束ニ関シテ注意ヲ喚起シ边防軍ヲシテ其ノ組織ノ目的以外ニ使用セシメザル様御尽力ヲ請フ
外務大臣へ電報セリ

三一七 六月十一日 在奉天赤塚總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

大總統ノ召電ヲ張作霖快諾ノ件

第一九一號

(六月十二日接受)

張作霖ハ本月十日徐大總統ノ召電ニ接シタル処直ニ之ヲ快諾シ目下直隸督軍曹錕及江蘇督軍李純ナドト上京日取ヲ打合ノ上于冲漢(督軍秘書官)町野顧問等ヲ從ヘテ晋京スル趣ナリ今回ノ召集ハ其ノ目的時局收拾問題ニアルハ勿論ナル処張作霖ハ中立ノ態度ヲ持シ安福直隸兩派ノ軋轢ヲ調停シ北方派ノ團結ヲ鞏固ニセントスルモノニシテ彼ハ内閣ノ

引受ケ手ナキ目下ノ状態ニ於テハ斬内閣ヲ維持スルノ外ナシトノ意見ヲ懷ケリ尚張作霖ノ滯京期間ハ二週間ノ予定ナリト云フ因ニ此程來奉中ノ孫黑龍江督軍及鮑吉林督軍ハ今晚各任地ニ向ケ出發スヘシト
在支公使へ電報セリ

三一八 六月十四日 在上海山崎總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国ノ政局ニ対シ日本ハ中立態度ヲ維持セラ
ル様切望スル旨孫文談話ノ件

第一三七號

(六月十五日接受)

六月十三日孫逸仙ノ林出ニ語レル談話要領左ノ通

北方安徽直隸兩派ノ軋轢甚シク政府ノ對湖南策今ニ決定シ能ハザルハ徐世昌ノ態度煮切ラザルコト其ノ一因ニシテ徐ノ態度ノ優柔決シ兼ヌルハ今回ノ南北政變ニ対スル日本ノ態度猶不明ナルコト主タル原因ナラント思考セラル從來支那ハ南北ニ分レ北方派ハ如何ナル事アリトモ日本ニ対シテ反對ノ声ヲ挙ゲ能ハザルモ南方派中自分等ノ派ニ属スルモノハ日本ニ対シ反抗スルノ胆力ト手段ト輿論ヲ動カス力トヲ有スルモノナリ然ルニ日本ハ從來北方ヲ援助シテ之ニ軍

北京及広東ニ転電シ南京へ郵送セリ

三一九 六月十六日 内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛(電報)

中国ノ内紛ニ関与セザル様訓令ノ件

第三二八號

支那政局ノ混沌タル近情ニ付テハ屢次ノ貴電竝各領事ヨリノ報告ニ依リ大体之ヲ了悉シ得ヘク今後ノ帰趨如何ハ尚ホ容易ニ速断ヲ容ササルモノアルヤニ觀察セラルル処其間貴電第四四八號ニ依ルモ段派乃至直隸派ノ我方ニ対スル魂胆ヲ推想セシムルニ足ルモノアルノミナラス最近ニ至テハ或ハ広東來電ノ通边防軍問題ニ関シ広東軍政府ヨリ貴官ニ訴フル所アリ或ハ天津長沙來電ノ通軍事輸送ニ関シ我方ノ好意的斡旋ヲ求メ來レル等ノ事例アル外支那各地新聞紙ハ頻ニ南北各派カ我方資本家ニ対シ戦費等ノ調達ヲ内議シツツアル旨無根ノ記事ヲ掲ケ居リ旁々此際在支帝國官民ノ執ルヘキ態度ニ付テハ頗ル慎重ナル考慮ヲ要シ苟クモ紛乱ノ渦中ニ投スルカ如キ举措ニ出テサル様細心ノ注意ヲ要スヘキハ申ス迄モ無之就テハ貴電第四四八號參戰軍問題ニ関シ支那側ノ注意ヲ喚起スルカ如キ積極的措施ニ出ツルハ素ヨリ

資ト軍器ヲ供給シテ武力統一ヲ図ラシメタルモ遂ニ失敗ニ帰シ自分等ハ此ノ日本ノ行動ニ対シテ反抗ノ態度ニ出デ排日的輿論ヲ煽動セリ然ルニ今回ハ南北各兩派ニ分レ自分等ハ三年以來敵トシテ戦ヒ來レル段派ト握手シ南北和議ヲ計ラントスルニ対シ徐世昌一派ハ南方岑煊陸榮廷ト結び之ニ對抗シ南北横断ヨリ転シテ縦断對峙ノ形勢ヲ為スニ至レリ此際自分等ハ国内問題解決ニ就イテ相当ノ確信ヲ有スル次第ナルモ他國ノ容喙アルニ於テハ又々計畫ニ齟齬ヲ來タスヲ免カレス日本ハ曩ニ段ヲ助ケテ南方討伐ヲ行ハシメタルハ支那ノ内情明カナラザリシガ為ニシテ今後斯ル失敗ヲ繰返サザルコトヲ希望ス今回ノ政變ニ付テモ日本ハ嚴正ニ中立態度ヲ維持シ決シテ一方ニ援助ヲ与フルガ如キコトナキ様切望ス今回張作霖ノ入京說ニ対シテハ支那人一般及外國人側ニテモ非常ノ注意ヲ払ヒツツアリ要スルニ此際張作霖ノ一挙一動ハ時局ニ対スル日本ノ態度ヲ表明スル「バロメートル」ナリトノ考ヲ持シ居リ若シ張作霖等ガ徐世昌援助ノ為段派ニ掣肘ヲ加フルニ於テハ国内統一再ビ絶望ニ陥ル虞アリ故ニ自分ハ日本政府ガ十分慎重ノ態度ヲ以テ我政局ヲ觀察セラレンコトヲ希望ス云々

事頗ル機微ニ亘リ從テ篤ト今後形勢ノ推移ヲ俟テ考慮ヲ要スル問題ナルモ差当リ在支官憲及居留民ニ於テ紛争ニ関与スルカ如キ行動ハ敵ニ之ヲ警ムルト同時ニ我方ニ関スル無稽ノ流伝臆説ニ對シテハ遲滞無ク取消其他弁妄ノ手段ヲ講スル様致度ニ付此際在支關係領事ニ對シ本大臣ノ訓令トシテ貴官ヨリ可然訓達シ置カル様致度シ

(欄外註記)

「陸軍省ヨリモ出先官憲ニ對シ適當訓示方頗ル望マシ」

三二〇 六月二十日 在中國小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

張作霖北京ニ到着シ曹錕モ近ク來京スル趣ナ

ル旨報告ノ件

第五七三号

(六月二十日接受)

六月拾九日張作霖当地へ來着直ニ奉天軍司令部ニ入レリ尚確實ト認メラルル報道ニ拠レバ曹錕モ近々來京ニ決シタリトノコトナリ
奉天天津上海広東漢口へ転電シ上海ヨリ南京へ転電セシメタリ

三二一 六月二十四日 在中國小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

張作霖吳佩孚夫々時局解決策トシテ安福俱樂部ノ解散其他ヲ建議ノ件

第五八七号

(六月二十四日接受)

六月二十三日深沢カ総統府内ノ確ナル筋ヨリ聞キ得タル情報左ノ通り

張作霖ハ今回入京ニ際シ時局解決策トシテ(一)安福俱樂部ノ解散(二)靳綏理ノ復任若シ万々叶ハサル時ハ周樹模ヲシテ内閣ヲ組織セシムルコト(三)安徽直隸兩派ノ調和提携(四)右(三)ニ基キ中央ノ威信ヲ維持スル為湖南ニ於ケル南北軍ヲ何レモ原防狀態ニ復帰セシムルコト譚延闓若シ聞カサレハ之ヲ討伐シ原防回復ヲ限リトナスコト(五)兩國会ヲ同時解散ト認メ議員ヲ改選スルコト等ヲ建議否要求シタルカ右ノ内尤モ重キヲ置ケルハ(一)ニアリ而シテ張カ今回如上ノ建築ヲナスニ至リタル趣旨ハ要スルニ直隸安徽兩派ノ調和提携ヲ不能ナラシメ延イテ南北統一ノ事業ヲ妨クルハ一ニ安福派ノ障害ヲナスニ依ルモノニテ之レサへ除カハ南北和議モ進行シ得ヘント云フニアリ

上海、広東、漢口へ転電シ上海ヨリ南京へ暗号ノ儘郵送セシメ奉天、吉林、天津、濟南へ郵送セリ

三二二 六月二十八日 在中國小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

張作霖ノ對段態度軟化ト内乱ノ見込ニ関スル

王克敏ノ内話報告ノ件

第六〇三号

(六月二十九日接受)

六月二十六日王克敏本使ヲ來訪シ張作霖ハ昨年末ヨリ専ラ在北京代表者ノ意見ニ基キ直隸派ト其行動ヲ共ニシ段派ニ對抗シ來リタル処過般鮑、孫兩督軍來京親シク時局推移ノ状態ヲ目撃シ帰路奉天ニ立寄り其余リニ露骨ニ段派ニ反對スル張ニ不得策ナルヲ注意シタル以來張ノ態度變シ來リ現ニ曩ニ吳佩孚ヨリ(一)靳綏理ヲ留任セシメテ新内閣ヲ組織セシムルコト(二)徐樹錚ヲ免職シ其軍隊ヲ陸軍部ノ直轄トスルコト(三)安福俱樂部ヲ解散スルコト(四)王揖唐ノ北方總代表タルコトヲ免ズルコトノ四項ニ付李純、王占元、陳光遠、趙倜及張作霖ノ五名ニ對シ秘密通電ヲ發シ贊成ヲ求メタルニ當リ他ノ四名ハ之ニ承諾ノ回答ヲ与ヘタルニ拘ラズ張作霖ノミハ右具ノ通電ヲ握潰シ何等意思ノ表示ヲナササリシコ

又同時ニ吳佩孚ヨリモ張ト前後シテ(一)安福俱樂部ノ解散(二)靳綏理ノ復任(三)國民大会ノ開催(四)小人ヲ懲弁スルコト(小人トハ徐樹錚、曾毓雋、李思浩、朱深、張敬堯等ヲ指ス)
(五)今後内閣組織ノ場合交通、財政、陸軍、各総長ハ各省督軍ノ同意ヲ要スルコトトナスコト等五箇条ヲ建議シ若シ安福俱樂部ヲ解散セサルニ於テハ武力ニ訴へ解決スヘシト仄カシ來レル処吳ノ背後ニ曹錕アリ曹ノ意思ヲ吳カ代リテ發表セルモノト見ルノ外ナク尚李純ヨリハ代表何恩溥ヲ派シ來リ是又(一)安福俱樂部ノ解散(二)靳綏理ノ復任(三)南北和議ノ進捗ノ三箇条ヲ建言セシメタルカ蓋シ張、曹、李三者間ニ予メ十分ノ聯絡アリテノ行動ナルハ想像ニ難カラス靳雲鵬自身ハ既ニ三度辭表ヲ提出セル以上如何ナルコトアルモ斷シテ復任セスト声明シ其ノ決心ハ極メテ固キ模様ナルカ安福派ノ主ナル曾、李、朱等ハ孰レモ張作霖等真向ヨリノ攻撃ト其ノ凄味ヲ帯ヒタルニ鮮カラス狼狽辟易ノ状アリ目下其ノ對策ニ腐心中ナルカ今後時局ノ發展ハ兎ニ角段祺瑞ノ出様如何竝段ト總統側ト果シテ如何ニ折合フヤ將又安福派ノ態度如何ニ依ル次第ニテ最モ注目ニ価スル時期ナリ云々右何等御參考迄不取敢電報ス

トアリ張今回ノ入京ハ主トシテ安徽直隸兩派ノ調停ニアル
モ張勳ハ兎角張作霖ノ右調停ヲ悦バズ又保定ニ赴キ曹錕呉
佩孚等ニ会见後ニ於テモ依然調停ノ態度ニ出デ必ズシモ直
隸派ヲ援助セントスルノ様子ナク大總統側及直隸派側ニ於
テ聊カ当テ逸レノ感ヲ抱キ居ルモノノ如シ畢竟今日ノ政局
ノ紛糾動搖ヲ来シタルハ大總統カ余リニ八方美人的ニ各派
ヲ利用セントシタル為ニシテ湖南ノ如キ張敬堯カ五万ノ所
屬兵四万ノ官軍ヲ有シナガラ脆クモ僅々数日間ニ長沙ヲ放
棄シ退却ニ次グニ退却ヲ以テスルノ失体ヲ演ズルニ至リ軍
人政客ハ何レモ国家思想ナク徒ラニ党同伐異互ニ相排陥ヲ
事トスル次第ナルニ依リ如何ナル機會ヨリ如何ナル事件ヲ
生セズトモ限ラズ一部論者中金無キタメ北方ニハ戦争ハ起
ラザルベント言ヘルモ必ズシモ然ラズ目下ノ形勢ハ丁度前
年ノ督軍團ノ黎大總統虐^{イッ}メ議會包圍ヤ段総理復任問題要求
騒等ヲ(脱)活シテ再演セントスル感ナキニアラズ支那ノ
常習トシテ必ズシモ樂觀ハ許サレズ何レニシテモ国家ノ福
ニアラズトテ浩歎セリ從來大總統派ニ接近セント認メラル
ル王ニシテ斯ル言ヲナスハ稍ヤ注意ニ値スト思考ス
広東上海へ転電シ上海ヨリ南京ニ郵送セシメ天津漢口濟南

中国政局ノ動乱ニ関シ在中国日本官憲ニ訓令
方ノ件

附記一 田中陸軍大臣ヨリ関東軍及各派遣軍司令官他
宛電報

二 田中陸軍大臣ヨリ在北京坂西少将宛電報

政一機密第三一号

本件ニ関シ別紙^(註)ノ通り在支小幡公使へ及電訓置候ニ付テハ
此際貴大臣ヨリモ駐支軍憲ニ対シ同様ノ趣旨ニ依リ訓令ヲ
得バ至極好都合ト存候此段及照会候也

註 別紙ヲ省略ス該別紙へ前掲小幡公使宛電報第三二八号(三
一九文書)ノ「バラフレーズ」ナリ

(附記一)

田中陸軍大臣ヨリ関東軍及各派遣軍司令官他宛電報

中国政局及動乱ニ絶對不干渉主義ニ出ツベキ旨訓示ノ件

大臣ヨリ関東軍、浦潮派遣軍、青島守備軍、台湾軍、

支那駐屯軍、中支那派遣隊司令官及坂西少将へ電報

北支那方面ノ騒乱ニ関シ在支帝国軍憲ノ採ルヘキ態度ニ就
テハ屢次訓示セル所ニシテ貴軍ニ於テハ之カ遵守ニ遺算ナ
キモ其ノ行動ニ就キ深慮慎重ナラザレバ動モスレバ世人ノ
疑惑ヲ招キ累ヲ帝国ノ对支政策ニ及ボスベキヲ以テ隸下出

奉天へ郵送セリ

三二三 六月二十八日 東在中国日本公使館附陸軍武官ヨリ
上原參謀總長宛(電報)

曹錕呉佩孚ノ安福派ニ対スル態度ニ関シ張作

霖ノ町野中佐ニ対スル談話報告ノ件

支第四八八号極秘 (六月三十日外務省写接受)

張巡閱使カ町野中佐ニ直話スル所左ノ如シ

張作霖ハ保定ニ曹錕ヲ訪問シ妥協ヲ促シタルモ曹錕及呉

佩孚ノ意嚮頗ル鞏固ニシテ安福派ヲ根底ヨリ覆シ徐樹錚

ヲ排斥シ後継内閣ニ関シテハ全部徐大總統ニ一任シ財政

交通総長ニハ安福派以外ノモノヲ以テ任命スヘシ等ノ条

件ヲ提出シ且張ニ向テ此際暫ク手ヲ引キテ奉天ニ帰ラレ

タント懇望スル等最強硬ナル意志ヲ表シ入京セス張作霖

ハ帰京後段祺瑞ニ対シ再三交渉シタルモ未タ効果ヲ見ル

ニ至ラス一、二日内ニ妥協ノ余地ナクンハ張ハ速ニ奉天

ニ帰ラントノ決心ヲ有ス云々

各地済

三二四 六月三十日 内田外務大臣ヨリ
田中陸軍、加藤海軍大臣各宛

先各機関ニ右ノ趣旨ヲ徹底セシメ深く戒心シ絶對不干渉主
義ニ出ツベク茲ニ重ネテ訓示ス

坂西少将ニハ「貴軍」ヲ「貴官」ニ作ル

註 此文書ハ日附ヲ欠ク

(附記二)

田中陸軍大臣ヨリ在北京坂西少将宛電報

中国内争ニ边防軍ヲ使用スル場合同軍ニ属スル日本人將

校ハ全然中立ノ態度ヲ取ルベキ旨指示ノ件

北支那方面ノ動乱ニ関シ边防軍ヲ国内政争ニ使用セサルノ
保障ハ唯帝国政府ノ忠言ニ対シ支那側ヨリ言明シ来レルモ

ノニシテ帝国ノ強要スヘキモノニアラス尚边防軍トノ關係

ヲ絶チ訓練処ニ対シ援助ヲ与フル件ニ関スル貴官ノ意見ニ

就テハ目下研究中ナルモ不取敢此際边防軍ノ動員出動ニ際

シ同軍ニ属スル我將校ハ全然中立ノ態度ヲ執リ一切事端ニ

干与セサルノミナラス事態ノ変化ニ伴ヒ要スレハ一時此等

將校ヲシテ边防軍ノ職務ヲ執ラサルノ処置ニ出ツヘシ尚今

次ノ騒乱ニ関スル帝国政府ノ態度ニ就テハ外務大臣ヨリ小

幡公使ニ電訓セラレタリ、南司令官ノ採ルヘキ処置ニ就テ

ハ直接同司令官ニ指示セリ、東少将へモ伝へヨ

註 此ノ文書ハ日附ヲ欠ク

三二五 七月一日 在中國小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

安直兩派ノ衝突激化シ早晚一大波瀾ヲ生ズル

コトアルベキ形勢ナル旨報告ノ件

第六二六号

(七月二日接受)

安徽直隸兩派ノ衝突益々甚シク或ハ早晚一大波瀾ノ生ズルニアラズヤト考ヘラル最近直隸ト氣脈ヲ通シ徐總統側ノ參謀長トモ目スベキ張志譚カ青木中將ニ対シ形勢ハ刻々自派ニ好都合ニ廻轉シ遠カラズ大總統任意ノ人物ヲ以テ周樹模内閣ヲ組織シ安福派屏息ノ時機到来セルコトヲ態々内告シタル事情ニ鑑ミ將又七月一日安福派ノ有力者視来レル段派ハ形勢ノ趨向ヲ察シ隱忍ニ隱忍ヲ重ネ出来得ル限り張作霖ノ調停ノ条件ヲ容ルルノ態度ニ出デ居ルニ拘ラズ曹錕一派ハ益々段派ノ足下ニ附ケ込ミ遂ニ(-)新内閣ニハ安福派三総長ヲ留任セシメザルコト(-)徐樹錚ノ籌邊使ヲ免ジ庫倫辦事大員トシテ庫倫ニ常駐セシムルコト(-)吳光新ノ湖南督軍辭任ヲ聞届ケザルコトノ三条件ヲ持出シ来レル為段モ斯ル無法ノ圧迫ニ空シク聽従スルニ於テハ到底段派勢力ノ全滅ヲ来ス外ナシトシ大ニ決心スル所アリ本日段祺瑞ヨリ最後通

南司令官ヨリ陸軍大臣宛大要左ノ通電報アリタル由御参考迄

「吳佩孚部下ノ軍隊一營来津督軍署附属建物ニ入りタル結果従来学生風潮鎮圧ノ為入津シ居リタル直隸軍隊ハ引揚ゲタリ本職ノ意見ハ多数ノ軍隊入津スル場合ニハ抗議ノ必要ヲ認ムルモ現在ノ程度ナレバ知ラザル真似シテ暫ク取合ハズ時機ヲ見テ必要ニ応ジ抗議スルヲ可ナリト信ズ本件ハ總領事ト協議済」

在支公使へ郵送セリ(奉天中継七月二日後六、一〇)

三二七 七月三日 在中國小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

安直開戦逼迫ノ狀況ニ関スル陸宗輿ノ内話報

告ノ件

第六三三号

(七月三日接受)

当地政局ハ益々悪化スルノ一方ナルガ如ク其ノ影響自然人心ノ不安ヲ来タシ家族ヲ安全ノ地点ニ避難セシムルモノ若クハ家屋財産ノ保護ヲ外国ニ託セントスルモノ漸ク多カラントスル模様アリ七月三日陸宗輿ガ西田ニ内報スル所ニ依レバ段祺瑞ハ昨二日大總統ノ弟徐世章ヲ介シ徐樹錚不可ナ

牒のニ徐總統ニ対シ曹錕一派申出ニ係ル叙上三条件ハ之ニ同意スベキニ依リ内閣ハ段自身ヲシテ組織セシメラレ度若シ此ノ意見ニシテ容レラズンハ段祺瑞自身ハ勿論其ノ党与拳テ其ノ官職ヲ擲ツノ外ナキ旨ヲ申入レ決答ヲ求メツツアリトノ報道ニ顧ルモ裏面ノ形勢ハ頗ル切迫シ居ルモノノ如シ右段ノ要求ガ容レラルル場合ニ曹錕一派ハ果シテ如何ノ態度ニ出ヅベキカ將又右ノ要望カ容レラザル場合ニハ段ハ果シテ如何ナル最後の態度ニ出ヅベキカ此數日ノ形勢ハ頗ル注目スベキモノノ如シ兎モ角最近形勢ノ稍々切迫セル趣ハ王郅隆カ方一ノ場合ニ於ケル其ノ家産ノ保護ヲ船津總領事ニ頼ミ出デタルニ徴スルモ明ラカニシテ目下当方ニ於テ各方面ニ付真相内探中ニ付何分ノ詳報ハ重ネテ電報スベキモ不取敢形勢推移御参考迄一応電報ス

三二六 七月二日 在天津船津總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

吳佩孚部下軍隊一營来津セルモ暫時様子ヲ見ルコトトスベキ旨南司令官ヨリ陸軍大臣へ電

報ノ件

第一一九号

レバ之ガ西北籌邊使ヲ奪ヒ庫倫ニ追ヒ遣ルモ可ナリ安福派三総長不可ナレバ之ガ免職ヲ決行スルモ可ナリ唯区々一師長ニ過ギザル吳佩孚ノ湖南引揚ゲ前後ニ於ケル言動ヲ此儘不問ニ附スルノ頗ル謂ハレナク彼ハ実ニ軍規ヲ破壊セル罪人ト謂ハザルベカラズ從テ外蒙古自治取消ニ功勞アル徐樹錚ヲ免職其他ノ処分ニ処スル以上当然吳佩孚ノ軍規破壊ノ罪ヲ問ハザルベカラズ大總統若シ自ラ吳ヲ懲罰スル能ハザレバ余ハ進ンデ總理トナリ之ガ決行ノ任ニ当ラントノ趣旨ヲ大總統ニ致シタルニ対シ大總統ハ単ニ「宜シク」ト答ヘタルヤニ伝聞セリ(此ノ意味明瞭ナラザルニ付陸宗輿ニ質シタルモ明瞭セズ)張作霖ハ目下ノ処寧ロ段派ニ傾キアリ相互互讓ニ依ル外紛争解決ノ途ナシトシ専心調停ニ努メツツアルモ時々刻々保定ヨリ来ル電報ハ益々曹錕側ノ強硬ヲ伝ヘ旁或ハ戦乱ハ免カレザルノ勢アリ而シテ段派ニ於テハ何ノ途戦闘開始ヲ已ムヲ得ズトスレハ寧ロ神速敵ノ機先ヲ制スルニ如カズト為ス説有力トナリツツアリ目下ノ処争闘開始ノ地点ハ何レナルカ北京附近ナルヤ將又北京内ナルヤ諸説紛々北京附近説確カナルガ如ク形勢ハ頗ル切迫シ居レリトノコトナリ

天津、上海、広東、漢口、濟南、南京、奉天、吉林、哈爾濱へ転電セリ

三二八 七月六日 在天津船津總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

吳佩孚軍入津ニ関スル抗議ハ中央政府ニ申入
ルル方可然旨小幡公使ニ稟申ノ件

第一二八号

本官発在支公使宛電報

第四二号

本官発外務大臣宛電報往電第一一九号ニ関シ七月六日南司令官ヨリ最早抗議ヲ提出スヘキ時機ニ達シタリト認メラルルニ付本官ヨリ曹省長へ一応口頭ヲ以テ可然申入レ方協議アリタル処本件ノ如キハ此際首席公使ヲシテ支那政府ニ申入レシムル方却ッテ好都合ナラズヤト思考セラルル何分ノ儀至急御電訓ヲ請フ

外務大臣へ転電セリ

三二九 七月八日 在中國小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

安直確執ニ対スル解決策ニ付陸宗輿ハ徐總統

日午後右ノ意ヲ段祺瑞ニ伝フル筈ナルモ到底段ハ之ヲ承諾スマジト察ス尚今回ノ事件ニ最モ気焰ヲ挙ゲ居ルハ段芝貴ニシテ同人ハ総司令タルベキガ故ニ曹汝霖ハ段芝貴ヲ訪ヒテ是非大總統ニ引合セ其節大總統ヨリ懇談セシムル手筈ナルモ果シテ段芝貴ハ大總統ニ面会スルコトヲ肯ズベキヤ否ヤ之レモ不明ニシテ要スルニ時局ガ無事ニ治マルヤ否ヤ今日晩方トナラザレハ明瞭ナラズ又幸ニ大總統ト段派トノ間ニ妥協附キタリトスルモ保定ニ於ケル曹錕呉佩孚等ハ果シテ之ニ服従スルヤ否ヤ頗ル疑問ニシテ先ヅ六分通りハ戦闘開始セラルルモノト覚悟セザルベカラズ段祺瑞ハ今日早朝団河ヨリ入京シ直ニ將軍府ノ會議ニ列シ大總統宛呈文ヲ議決シ直ニ之ヲ送附シタル次第ナルガ自分等ノ段ニ面会シ調停意見ヲ述べタルハ段ガ將軍府ヨリ帰邸セル後ナリ尚張作霖ハ直ニハ帰奉セズシテ天津辺ニテ暫ク形勢ヲ觀望スル意思ナラント推察ス張ガ退京前ニ段ニ面会シ段ガ愈々保定派ヲ攻撃スルニ決定セルニ於テハ自分(張)ヲシテ段ニ代リ此事ヲ実行スルモ可ナリ若シ其レガ不可ナレバ自分ノ軍隊全部ヲ段ノ指揮ノモトニ働カシムルモ可ナリト述べタルモ段ハ絶対ニ其ノ好意ヲ謝絶シタル上若シ張ニシテ段ニ好意

段祺瑞間ニ斡旋セルモ戦闘開始ハ多分避ケ難
カラント内話ノ件

第六六九号

(七月九日接受)

七月八日陸宗輿本使ヲ来訪シ内話セル所ニ依レバ一昨六日曹汝霖ハ書面ヲ以テ大總統ニ縷々安徽直隸兩派確執ニ対スル解決案ヲ陳述シ更ニ昨七日自分ハ曹汝霖ト共ニ大總統ニ面謁シ段祺瑞一派激昂ノ尋常ナラザル次第ヲ述べ此上同派ヲ憤激セシムルハ益々事態ヲ紛糾セシメ危機ノ目前ニ迫レルヲ説キ此際大總統トシテハ公平ノ処置ヲ示ス為速ニ呉佩孚免職ノ命令ヲ発セラルルコトノ至当ニシテ且乱局ヲ救済スル所以ナルヲ力説シタル処大總統モ漸ク之ヲ承諾シタルニ付今朝此意ヲ通ゼンガ為斬雲鵬、曹汝霖、袁乃寬、龍濟光ノ四名ト打連レ自分ハ段ノ私邸ニ於テ段ニ会見シタルニ段ハ本八日中ニ曹錕免職、呉佩孚、曹銳ノ逮捕懲罰ヲ命ズルニアラザレバ列底激昂セル部下軍隊ヲ鎮撫スル能ハズトノコトナルヲ以テ自分等ハ再び大總統ニ右段ノ意見ヲ伝ヘタルニ大總統ハ呉佩孚ノ免職勲位等ノ剝奪ヲ承諾シタルモ此際曹ヲ免職セバ却ッテ反動的ニ不穩ノ事態ヲ醸スベントテ戒飭ヲ加フル意味ノ命令ヲ発スルダケヲ承諾シタリ依テ今

アラバ陝西方面ニ在ル奉天軍全部ヲ山海関以東ニ引揚グレハ足レリト答ヘタル由張ガ在陝西奉天軍ニ対シ軍糧城迄引揚ヲ電命セルハ恐ラク之カ為ナラン
上海、広東、天津、漢口へ転電シ上海ヨリ南京ニ郵送セシメ奉天濟南ニ郵送セリ

三三〇 七月八日 在北京坂西少將ヨリ
上原參謀總長宛(電報)

边防軍ヲ内争ニ使用スルコトニ付中国政府へ
抗議シ可然旨青木中將ヨリ意見具申ノ件

坂極秘電四九 (七月十二日外務省写接受)

青木電報

意見具申

我が国カ以前段祺瑞ヲ援助シアリトノ中外人ノ誤解カ先年排日風潮ノ重ナル原因トナリ又參戰軍即チ今日ノ边防軍ヲ内争ニ使用セストハ嘗テ政府ノ声明セシ処ナルニ拘ラズ今段祺瑞ハ直隸派ニ對抗スルカ為大總統ノ意志ニ反シ明カニ边防軍第一師、第三師及第九師ヲ保定方面ニ向ヒ出動センメントシツツアリ今若シ之ニ対シ何等カノ処置ヲ為ササルニ於テハ我国ニハ今尚段祺瑞ヲ援助シ而カモ大總統ノ意志

ニ反スル彼ノ今回ノ専断の行為ニ同情シアルモノト見做サレ今後排日ノ風潮ハ益々増長スヘク外人モ亦依然段派ヲ援助シアルモノトナシ我が国ノ对支那政策ニ面白カラサル影響ヲ与フルノ恐れアリ今若シ此ノ一挙ニ依リ安徽派カ果シテ勝利ヲ得段祺瑞ノ勢力カ更ニ増大スルモノトセハ我カ国ニサシタル不利ナカランモ直隸派ノ勢力モ亦侮ルヘカラサルモノアリ且今時南方実力派トモ声息ヲ通シアルヲ以テ安徽派カ必ス勝ヲ制スルモノト見ル能ハス若シ安徽派ノ不利ニ終ルカ又ハ戰場ニ於テ边防軍悪成績ヲ見ルカ如キコトアルニ於テハ我カ国今後ノ对支政策上不利ニ陥ルハ勿論边防軍ハ我カ將校ニ依リ訓育サレタル關係上我陸軍ノ名譽ニモ汚点ヲ残スニ至ルヘク機宜ノ策トシテ此際我カ国ヨリ边防軍ヲ内争ニ使用セストノ声明ヲ根拠トシテ支那政府ニ向ヒ以テ抗議ヲ呈シ其ノ声明ヲ実施セシムル様取計ハレンコトヲ切望ス

三三一 七月八日 東在中國日本公使館附陸軍武官ヨリ
上原參謀總長宛(電報)

段祺瑞將軍府ニ於テ議決ノ吳佩孚、曹錕問責

ノ呈文ヲ總統ニ送附シ袁乃寬曹汝霖總統ヲ説

キ交渉中ナル旨報告ノ件

至急支第五一二号 (七月十二日外務省写接受)

第三八七号 (至急)

屢次ノ貴電ニ依リ北支方面ノ形勢愈切迫セル処右騷乱タル全然支那国内朋党間ノ争ニ止マリ帝國政府カ從來声明セル不偏不党内政不干渉ノ態度ハ此ノ際最嚴正ニ維持スヘク唯騷乱ノ結果在留本邦人ノ生命財産ニ危害ヲ及ホサシメサル様我駐屯軍トモ協議シ適宜ノ処置ヲ執ルル様致度右ノ方針ニテ貴地外交團ニ於テ協同措置ノ提議アルニ於テハ之ニ賛同セラレ差支ナシ唯此ノ際安徽直隸兩派ノ間ニ立チテ和平勸告ヲ為ス可否ニ至テハ慎重考慮ヲ要ス和平条件ヲ提出スルコトナク単ニ和解ヲ勸告スルコトハ何等妨ケナキモ苟モ調停ノ措置ニ出ツル以上最機微ニ亘ル兩党ノ論争点ニ對シ是非ノ評ヲ下スノ止ムヲ得サルニ至ルヘク輕々ニ断スヘカラサル問題タリ此ノ故ニ支那側ヨリ調停ヲ依頼シ来ラサル限り列國ノ代表者ハ多分靜ニ形勢ヲ觀望スヘキモノト推察セラルルモ差向我方トシテ考慮スヘキハ边防軍ヲ国内政争ニ使用スルノ件ナルカ(一)右边防軍ヲ国内政争ニ使用セサルノ保障ハ唯帝國政府ノ忠言ニ對シ支那側ヨリ言明シ来レルモノニ屬シ帝國政府ハ之ヲ強要スルノ義務アルモノニ非ス此ノ保障ヲ破ルト否トハ支那側ノ責任ニシテ其ノ事實並結果ヲ見テ徐コニ適當ノ措置ニ出ツルコト可然(二)今ヤ支那

段祺瑞ハ予定ノ如ク今朝將軍府ニ至リ各將軍國務院其他京畿ノ各行政庁員(司法及國會議員ヲ除ク)ヲ集メ吳佩孚ノ罪狀ヲ挙ケテ軍律ヲ以テ処分スヘキモノナルコトヲ述ヘ次テ曹錕ハ彼等ヲ監督スル職ニアリ乍ラ其實ヲ尽ササル上未タ彼等ト事ヲ共ニシ其罪許スヘカラサル旨ヲ説明セル処一言モ之ニ反對スル者無ク次テ段ハ懷中セル呈文ヲ讀ミ聞カセタルニ全員之ニ賛同セシヲ以テ直チニ國務院ノ一員ヲシテ之ヲ總統府ニ送ラシメ自己ハ私邸ニ帰レリ此時曹汝霖、陸宗輿、袁乃寬、龍濟光等段ノ帰来ヲ待チ合セアリ總統ノ意見トシテ吳佩孚ノ懲罰曹錕ノ譴責ノ妥協案ヲ提出シタルモ段ノ決心強硬ニシテ聞入レス依リテ袁乃寬ヨリ段ノ最後ノ決心ヲ尋ネタル処段ハ吳佩孚及曹錕ノ查辦曹錕ノ罷免ヲ要求シテ動カスヘカラス袁乃寬、曹汝霖ハ總統ヲ説テ交渉中ナリ而シテ段ハ本夜十一時迄ハ軍隊ヲ高碑店以南ニ移サスト言ヒ居レリ、北京ニハ本夜八時戒嚴令ヲ布カルル管

三三二 七月九日 内田外務大臣ヨリ
在中國小幡公使宛(電報)

安直問ノ紛争ニ我方ハ嚴正中立ヲ維持スベキ

コトヲ指示シ尚边防軍ヲ国内政争ニ使用ノ問

題其他当面ノ諸問題ノ措置ニ付訓令ノ件

各派ガ兵ヲ擁シテ相争ヘル際一方ニ對シテノミ其ノ兵力使用ノ禁止ヲ強要スルコトハ自然他方ヲ援助スルノ結果トナリ内政干渉一党擁護ノ謗ヲ免レス就テハ貴官ハ本件カ貴地外交團等ニテ問題トナル場合ニハ右ノ趣旨ヲ以テ一応論駁シ置キ其後ノ措置ニ付テハ更ニ請訓セラレタシ最边防軍ニ屬スル我將校等ハ曩ニ陸軍省ヨリ坂西宛訓令ノ通り此ノ際全然中立ノ態度ヲ執リ右軍隊ノ動員出師等ニ一切干与スヘカラサルハ当然ノコトニテ可得出来ハ是等將校ヲシテ一時边防軍ヨリ辭職セシムル方可然ト認メラレ此ノ趣旨ヲ以テ陸軍大臣ヨリ更ニ坂西ニ對シ適當訓令アル管ニ付御含置相成タシ尚天津發貴官宛第四二号南司令官ヨリ曹督軍宛抗議ノ件ハ實際上多數ノ兵力天津周圍二十清里内ニ侵入スル咄ニ於テ條約上固ヨリ当然ノ事ニ屬スト雖輕々ニ之ヲ実行セハ或ハ一党ニ偏スルヤノ嫌モアルニ付差向ノ処不取敢曹錕ノ注意ヲ喚起セムカ為一応ノ警告ニ止メ置クコトト致度ニ付此ノ趣旨ヲ以テ關係列國代表者又ハ武官間ノ協議ヲ纏メラルル様致度

尚ホ陸軍大臣ヨリ南司令官ニ對シ右ノ趣旨ニテ電訓アル管ナリ本電天津、奉天、漢口、広東、上海へ転電アレ

三三三 七月九日 在天津船津總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

安直戰關開始ノ場合ニモ天津ヲ兵乱ニ委セザル様各國ノ領事及駐屯軍司令官ノ援助ヲ希望スル旨直隸省議會議長ヨリ申出ノ件

第一四〇号 (七月十日接受)

七月九日直省議會議長本官ヲ來訪シ時局ハ愈々行詰リ或ハ直隸安徽兩軍ハ戰端ヲ開クヤモ計リ難シ尤モ直隸派ニテハ何処迄モ受身トナリ段派ヨリ攻撃ヲ受ケザル限リ断ジテ砲火ヲ交ヘザル方針ナリ張作霖ノ調停モ遂ニ其効ヲ奏セザリシハ甚ダ遺憾ノ至リニテ支那ノ不幸ナリ愈々安、直兩軍戰鬪ヲ開始スルニ至レハ張作霖モ一部隊ヲ山海關以西ニ進ムル管ナリ自分等トシテ望ム所ハ天津ヲ絶対ニ兵乱ニ委セザルコトニテ既ニ省長トモ協議ノ上此際直隸軍ハ條約ノ規定ニ依リ十里以外ニ撤退セシムル管ナリ尚万一ノ場合ハ天津一体ノ治安秩序維持ニ関シ各國領事及各國駐屯軍司令官ノ好意の援助ヲ希望スル旨ヲ述ヘテ引取レリ
在支公使ヘ電報セリ(奉天癸七月九日後一一、〇)

三三四 七月九日 東在中國日本公使館附陸軍武官ヨリ
上原參謀總長宛(電報)

テハ日本ハ全然中立ノ態度ニ在レハ東三省ニ於ケル日本人ノ生命財産ニ不安ヲ感セサル限リハ何等干渉ヲ為ササルコトト思考スル旨答ヘ置ケリ
又引キ続キ、「ロイテル」通信社員「ワーン」ヲ訪ヒタルニ彼ハ辺防軍ノ事ニ就テハ善ク了解シアリシカ張作霖ノ出兵スルニ至ラハ東三省ノ擾乱ハ免レサルヘシト云ヒタルニ依リ小官モ同感ナル旨答ヘ置ケリ
兩人ノ言ニ依レバ彼等ハ張作霖ノ出兵カ日本ト重大ナル關係ヲ有スルコトヲ知覺シアルモノト考フ
御参考迄

三三五 七月十日 在天津船津總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

政局混乱ノ結果北京ヨリ二千余名天津ニ避難及經濟界ノ恐慌並天津市民ガ直隸軍兵士ノ掠奪ヲ恐レ居ル狀況ニ付報告ノ件

第一四一号 (七月十一日接受)

今回政局混乱ノ結果北京ヨリ当地ニ避難セシ支那官民約二千余名ニ達シタル為当地各國租界ニ於ケル空屋ハ総テ借り切ラレ旅館等ハ何レモ満員ニテ料理店劇場等モ之ニ伴ヒ頗

辺防軍ト日本人教官ノ關係及張作霖ノ関内進出ト滿洲ノ治安ニ付外人記者ニ我方ノ見解説明ノ件

支第五一六号 (七月十二日外務省寫接受)

辺防軍カ逐次軍事輸送セラルルニヨリ日本ニ対スル誤解ヲ防ク為メ本日倫敦「タイムス」特派員「フレーザー」ヲ訪ヒタルニ彼ハ

一、辺防軍師団ニハ日本ノ將校カ教官トシテ入り居ル様ニ誤解シアリシニヨリ夫ハ全ク考ヘ違ヒニシテ辺防軍師団ト日本教官トハ關係ナク日本教官ハ坂西少將ノ監督下ニ辺防軍訓練所ノ教育指導ニ任シアルニ過キササル事ヲ説明シ且ツ今回ノ戰鬪狀態ニ移ルト共ニ坂西少將ヨリ斬雲鵬ニ書面ヲ送り戰時情態ノ続ク限リ日本教官ハ全然支那側ト關係ヲ絶ツコトヲ告ケ其ノ回答ヲ待ツテ之ヲ世間ニ発表スル管ナル旨ヲ語リタルニ彼レハ初メテ諒解シ早速倫敦本社ニ電報シテ日本ノ為ニ誤解ヲ解クヘシト答ヘ次テ

二、張作霖カ東三省ノ軍隊ヲ関内ニ入ルルコトトナラハ滿洲ニ於ケル治安ニ大ナル影響アルヘキニヨリ日本トシテハ何カ忠告スル考ナリヤト問ヒタルニヨリ今回ノ確執ニ對シ

ル好況ヲ呈シ居ルモ一般經濟界ハ先般來不景氣ナリシ上今回ノ政変ニ依リ更ニ一層ノ恐慌ヲ來タシ昨日來支那銀行ノ閉店スルモノ統出シ未ダ正確ナル數ハ知り難キモ既ニ十軒内外ノ多キニ達シタリト云フ其ノ原因ハ種々ナルヘキモ今回支那官憲ニ於ケル軍費ヲ調達スル為俄ニ預金ヲ引出シタル事モ亦一因ナリトノ事ナルガ目下更ニ精査中ナリ又目下郎房ニ駐屯スル直隸軍カ極メテ優勢ナル辺防軍ト衝突セバ必ズ直隸軍ノマ(脱)結果彼等ハ天津市内ニ遁竄シ城内ニ掠奪ヲ行フ事アルヤモ計リ難シトテ天津市民ハ大イニ憂慮シ居ル趣ナリ(奉天經由十日後五)

三三六 七月十日 在天津船津總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

日本政府ハ辺防軍ノ日本將校ヲ直ニ召還セヨトノ京津タイムス社説報告ノ件

第一四三号 (七月十一日接受)

七月十日発行 P. T. Times ハ段祺瑞ノ日本軍ト題スル論說ヲ掲ゲタルガ其ノ末段ニ日本ハ辺防軍ハ断ジテ内争ニ使用

セザル事ヲ声明シタルニ拘ラズ段祺瑞ガ今回直隸軍ニ對抗セントスル軍隊ノ主ナルモノハ边防軍ナリサスレバ日本政府ハ此ノ際少クモ現在边防軍ニ招聘セラレ居ル日本將校ヲ直チニ召還ス可キ德義上ノ責任アリ云々ト云ヘリ全文郵送ス
在支公使ニ郵送セリ

三三七 七月十一日 在天津船津總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

造幣廠長吳鼎昌安直戰爭開始ノ場合ニ備ヘ廠

内ノ銀貨銅塊ノ処置方ニ関シ談話ノ件

第一四七号 (七月十二日接受)

七月十一日万繩拭張勳ノ名刺ヲ持參シ本官ヲ來訪シテ張ガ一昨夜当地ニ來着シタル旨ヲ告ゲ不日徐州ニ赴クナラントノ噂ヲ打消シ当分当地ニ於テ靜ニ時局ノ成行ヲ傍觀スル筈ナリト言ヘリ同日造幣廠長吳鼎昌本官ヲ來訪シ今回ノ事タル全ク曹錕ガ吳佩孚、辺守靖、下蔭昌(商務總會總理)等ニ誤ラレ非常手段ニテ彼等ノ目的ヲ達セントシタルニ基クモ

ノニテ從ツテ彼等ハ作戰上差シタル準備ナク現ニ鐵道等ニ関シテハ何等ノ用意ナカリシモノノ如シ自分等(吳)ハ或ハ今日ノ事態トナルヤモ計リ難キヲ慮リ造幣廠ニ在リシ約百万弗ノ銀貨ハ既ニ各国租界ニアル各外国銀行ニソレゾレ預ケ濟ミナル処尚五十万弗ニ値スル銅塊アリ之ハ場合ニ依リ直隸官憲ノ為ニ押収セラルルコトナルヤモ計リ難シ可成此分モ直隸派ノ手ニ入ラザル様致シ度キ考ナルモ目下ノ処之ヲ免ルルニ何等名案ナシ然シ楊以德ノ實力優勢ニシテ曹錕ガ獨立ヲ宣言スル能ハザルトキハ楊ノ保護ニ因リ或ハ右銅塊ノ安全ヲ期スル望ナキニ非ザルモ目下楊部下ノ巡警約三千然シテ曹錕ハ目下既ニ巡警ノ名義ニテ護衛兵約二千ヲ有シ昨今漸次其ノ數ヲ増加シツアルヲ以テ今後如何ニ成リ行クヤハ極メテ不明ナリト言ヘリ

右談話中造幣(不明) 曹錕ハ天津ニ於ケル中央政府所屬ノ各機關ヲ速ニ押収スベキ旨曹錕ニ電訓シタル趣吳ニ報告アリタリ
在支公使ヘ転電セリ(奉天經由七月十一日午後七、一〇)

三三八 七月十一日 在奉天大橋總領事代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

張作霖ノ北京政局ニ対スル態度ニ関シ報告ノ件

第二二六号 (七月十一日接受)

張作霖ハ九日夜歸奉シ昨日ヨリ北京政局ニ対スル態度ヲ決スル為軍事會議ヲ開キ本日ハ鮑吉林督軍一行來奉右會議ニ参加シツツアリ尚近々孫黑龍督軍及第十九師長吳俊陞中將等來奉ノ上大會議ヲ開催スル趣ナルカ大体ノ方針トシテ差当リセシ方面ニ於テ許蘭洲ノ率ユル四混成旅ヲ北京城外西山ノ辺ニ駐メ嚴正中立ノ態度ヲ持セシメ京奉線一帶ニ分派セル兵力ヲ一個所ニ集中スルコトニ決定シタルカ如シ目下ノ処張作霖ハ軍事大會議ノ上東三省ノ兵力ヲ何時ニテモ動カシ得ル様引纏メ遙ニ北京ノ雲行ヲ觀望シ機ヲ見テ調停ニ出ツル模様ナリ
北京、齊々哈爾、吉林ヘ転電セリ

三三九 七月十一日 在奉天大橋總領事代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

張作霖ト段祺瑞トノ關係ニ付町野顧問内話ノ

件

第二二七号 (七月十二日接受)

張作霖ヨリ少シ遅レテ北京ヨリ歸奉セル町野顧問ガ北京ニ於ケル張作霖ノ行動ニ付本官ニ内話セル目新ラシキ事実左ノ通り

張作霖出発ノ當時ハ秦華、張景惠等ノ云フ所ヲ信ジ評判惡シキ安福派ト離レテ段祺瑞ノ勢望尚盛ナル事実ヲ看過シ表面ハ何処迄モ中立ヲ保チナガラ内心段派ヲ蔑視シテ事ニ当リタル結果段内閣ハ大總統ノ肚裡ニ葬ラレ不公平ニモ徐樹錚ノミノ免職ヲ見タル次第ナリ然ルニ四日ニ至リ今迄旗幟鮮明ヲ欠キ居タル第十三、第十四ノ兩師団ガ全部段派ニ加担シ形勢逆転シタルヲ以テ張作霖ハ直ニ大總統ニ謁見シテ徐樹錚ト共ニ吳佩孚ヲモ免職スベク進言シタルガ勢力ヲ増大シテ鼻息荒キ段ハ進テ曹錕ノ免職方ヲ強要スルニ至レリ斯クテ形勢ハ段派ニ有利トナルヤ張作霖ハ窮地ニ落チタルヲ以テ子分等ハ段派ニ対シ張ノ嚴正公平ナル態度ヲ宣伝シツツモ多少不安ニ馭ラレ居タルガ張ハ何時ノ間ニカ段派ノ了解ヲ得タルモノト見エ八日午前一時北京出発ノ際ニハ段芝貴及段祺瑞ノ代表者態々見送リニ出タル程ニテ途中無事

帰還シタリ然ルニ(脱) 残留シタル張景惠ハ最近天津ニ遁
レタル事実ヨリ見レハ段派ノ張作霖ニ対スル感情ハ目下余
程悪化シタルモノノ如ク張ハ危キ処ヲ逃レタルモノト云フ
ベシ北京兩派ノ形勢ハ兵力ニ於テ軍資金ニ於テ段派優リ且
段ノ股肱丁士源ガ十二台トカノ大形飛行機ヲ指揮シテ段ノ
為狂奔シ居レバ勝利ハ結局段派ノモノタルベク張作霖ハ兵
力ヲ擁シテ当地ニ盤踞シ通電ヲ以テ所期ノ目的ヲ達スル意
嚮ナルガ如シ云々
在支公使へ転電セリ

三四〇 七月十二日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

張作霖ノ直隸派支持ニ依ル安福派ノ類勢挽回
ノ為同派領袖姚震ヨリ日本ノ援助ヲ願出ノ件

第六九二号(至急)

(七月十三日接受)

安直対峙ノ模様ニ付テハ往電第六九〇号ヲ以テ電報セル通
ノ処七月十一日張作霖ヨリ大總統及段祺瑞ニ宛急電アリ安
直兩軍ノ戦闘開始ニ不賛成ノ意ヲ表明シ若シ万一開戦ノ已
ムヲ得サルニ至ラバ張トシテハ直隸軍ト策応シ自ラ三軍ヲ
率イテ北京ニ臨ムノ外ナキ旨申来リタル為段派ノ策戦計画

キモ如何セン叙上ノ通張作霖ガ其ノ旗幟ヲ闡明シ安徽派ヲ
屈服セントスルノ態度ヲ表明シ来リタル以上消極的ニ与フ
ル我が声援位ニテハ到底此ノ逆勢ヲ挽回スル見込ナキハ勿
論最近不偏不党内政不干渉ヲ声明シタル我が方トシテモ
愁イニ手ヲ下シ他ノ非難物議ヲ招カシムルモ寧ろ張作霖ヨ
リノ来電アリタルヲ機会ニ段派ヲシテ手ヲ引カシメ隱忍他
日ニ於ケル勢力ノ挽回ヲ徐ニ講ゼシムル外非ザル可シト考
フ東少將ヨリモ陸軍省へ電報アリタルニ付御寄寄セ参照ア
リ度シ
尚本件姚震ノ西田及東少將ニ対スル談話ノ次第ハ現ニ極秘
ニ附セラレ度キ由同人ヨリ特ニ願出アリタルニ付テハ右御
含ノ上外間ニ漏レザル様取扱ヲ請フ

註 七月十二日小幡公使發第六九〇号ヲ省略セリ

三四一 七月十三日 在広東太田總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

広東軍政府ハ日本ノ援段牽制ノ為捏造記事ノ
新聞掲載ヲ企テ居ル旨報告及我方ノ対策ニ付
請訓ノ件

第一五六号

(七月十三日接受)

ニ多大ノ頓挫ヲ来シ予定ノ総攻撃命令ヲ差控ヘ狼狽恐慌ノ
極目下殆ド如何ニ善後ヲ処置シ然ル可キカ途方ニ暮レ居ル
趣ナリ(以上別電ノ通り転電セリ)数日前安福派領袖ノ一人
ナル姚震ヨリ再三西田通訳官ヲ介シ頻リニ我方ニ於テ張作
霖ノ出動ヲ牽制スルノ舉ニ出デムコトヲ本使ニ内願シ来リ
タルニ対シ本使ハ西田ヲシテ体ヨク日本ヨリ右様ノ声援ヲ
期待シ得ベカラザルコトヲ説明セシメ来リタル次第ノ処十
一日夜同人ハ特ニ東少將ヲ訪問シ本使ニ対スルト同様ノ歎
願ヲ為シ結局今回ノ争ヲ以テ親日親米ノ争ナリトシ聽テハ
共和ト復辟トノ争ニ変化ス可キ機運ニ向ヒツアル次第ヨ
リ斯クシテ段派ノ没落ハ親日派ノ没落ヲ意味スルト同時ニ
復辟派ノ抬頭ヲ促スニ至ル可キヲ切言シ日本ノ援助ヲ懇願
シ悄々トシテ引取リタル趣ナリ之ヲ要スルニ姚震ノ云フガ
如ク果シテ段派ガ絶対的親日派ナルヤ否ヤハ幾分疑ハシキ
次第ニシテ彼等ノ形勢ガ非ナルトキハ常ニ此ノ種ノ言ヲ為
スハ敢テ珍シキコトニ非ザルモ從來ノ關係因縁ニ顧ミルモ
同派中ニハ比較的日本人ヲ了解シ又日本ニ同情ヲ有スルモノ
多数ナルハ争フ可カラザル事実ニシテ目下ノ場合同派ノ没
落絶滅ハ我が将来ノ日支關係上極メテ遺憾ノコトニ相違ナ

昨十二日夜容伯廷カ内報シ来レル所ニ依レバ軍政府ハ過去
ノ經驗ニ鑑ミ今回ノ時局ニ関シテモ日本ハ結局裏面ニ於テ
段祺瑞ヲ援助スルニ至ル可キヲ疑ヒ之ガ予防の意味ヲ以テ
態ト捏造電報及記事ヲ新聞ニ掲載セシムル方針ニ決シタリ
トノコトナリ容ハ軍政府及督軍公署ノ最モ信用セル御用記
者ナレハ其報告ハ充分信ヲ置クニ足ルモノト思ハレ尙直隸
派ニ属スル各督軍等ニ於テモ或ハ同様ノ政策ニ出ヅルヤモ
知レズ既ニ官憲ニ於テ斯クノ如キ考ヲ有スル以上箇々ノ新
聞記事ニ関シ今後日本側ニ於テ如何ニ訂正若クハ取消ヲ要
求スルモ何等効果ナシト思ハルルニ付御攷究ノ上何分ノ対
応策御指図セラレタシ
在支公使へ電報セリ

三四二 七月十三日 在上海山崎總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

安直衝突ニ際シ中国側ニ応聘ノ我軍人ガ夫々
各派ヲ援助シ中国攪乱ノ政策ヲ弄ストノ批難
ニ対スル措置本多公使ヨリ献言ノ件

第一八一号

(七月十三日接受)

本多公使ヨリ(極秘)

本使ヨリ此ノ際兎角ノ意見ヲ上申スルハ甚ダ差出ケ間敷嫌アルモ本使ガ広東、香港並ニ当地ニ於テ支那人側及外國側ノ殆ト有ラユル方面ノ代表の人物ト接觸ノ印象ニ依ルニ(一)昨年来ノ風潮ニ拘ラズ支那側識者ノ帝國ノ国力ニ対スル尊敬ハ大体ニ於テ依然トシテ變ル所ナク支那ノ立場トシテ永遠ニ日本ヲ疎外シ得ザルコトハ其ノ心底ニ於テハ理解シ居ルコト(二)排日排貨ノ氣勢モ追々下火ト相成リ広東方面ノ如キ日支兩國人ノ通商其ノ他社交上ノ關係(本邦トノ貿易ハ同地全輸出入ノ約七割ヲ占ム)意外ニ円満ニシテ当上海ニ於テモ今ヤ漸ク氣運轉換ノ時機ニ入りツツアリ帝國ニ於テ適當ノ機會ヲ捕ヘテ外交上支那人ノ誤解ヲ一掃シ第三國人ノ中傷ニ辭柄ナカラシムル底ノ遣口ニ出デラルルニ於テハ日支關係ノ局面展開ハ必ズシモ望ナシトセザル狀態ニアリ然ルニ今回直隸安徽兩派ノ衝突ニ際シ帝國ハ復又浮名ヲ謳ハレ此ノ一週間以來當方面各新聞ハ一トシテ坂西少將其ノ他日本軍人ノ戰鬪行為援助ニ関スル北京電報ヲ掲ゲサル無ク今ヤ日本ハ復又例ノ支那擾亂政策ヲ弄シツツアリトテ輿論ノ激昂益々甚ダシク加フルニ英米側ノ暗中煽動モアリ支那各団体ハ今ヤ列強ノ圧力ヲ借り日本將校放逐トマデ押進

マントスル意氣込ミニ見ユ

当方面英米人側ノ排日氣運ハ貴大臣閣下ノ演説ニ対スル彼等ノ論評ヲ見ルモ既ニ御推知ノ通りナルガ最近「オルストン」公使ノ帰國ニ際シ支那一部ノ団体ガ提出シタル日英同盟継続ノ反対覚書ノ如キ(本書ハ「オルストン」着英迄秘密ニ附ストノコトナリシガ「オ」氏出発ノ当日米國側新聞ニ全文掲載セラレタリ)明ニ英米側ノ鼓吹ニ出デタルハ一見シテ推斷シ得ル所ナリ而シテ英米側ノ排日活動ノ現下殊ニ猛烈ナル所以ハ畢竟上段(一)及(二)ノ如キ事情アルガ為ニ外ナラズ此際ニ當リ帝國軍人ガ今回ノ如キ純乎タル支那朋黨間ノ私争ニ關係スルガ如キハ最彼等ニ辭柄ヲ与フル所以タルハ勿論ニシテ殊ニ況ヤ北方應聘ノ我軍人ハ段派ノ為ニ働キ南方應聘ノ軍人ハ直隸派督軍ノ為ニ獻策シ(例セバ李純ノ許ニモ我應聘將校アルヲ忘ルベカラズ)張作霖ヲ始メ其傭將將校ノ後援ヲ得ツツアリト云フガ如キ形ニテハ帝國ハ徒ラニ支那ノ變亂助長ヲ事トシ斯ル苦肉策ヲ弄スルモノト評セラルルトモ何等弁明ノ辭無カルベク而シテ斯ノ如キハ當ニ外人及支那人間ノ定評タルノ現狀ナルニ顧ミ帝國政府ハ此際斷然各方面應聘ノ我軍人ヲ一時離聘セシメ以テ我政

府公明ノ方針ヲ表彰セラルルコト最時宜ニ適スベク然ラズンバ帝國ハ結局外交上通商上恢復スベカラザル窮地ニ陥ルニ至ルノ他ナシト思考ス区々ノ微衷敢テ所感ヲ披瀝シテ御参考ノ一端ニ供ス
本官ハ十三日出發海路青島ニ赴ク

三四三 七月十三日
在奉天佐藤陸軍少將ヨリ
福田參謀次長各宛(電報)
山梨陸軍次官

時局ニ対スル張作霖ノ意向ニ関シ報告ノ件

(七月十六日外務省写接受)

十二日貴志少將ト共ニ張作霖ニ会见シ懇談セル要領左ノ如シ

一、目下北京政局ニ対スル彼ノ決心ハ全然直隸派ト行動ヲ共ニスルモノノ如ク段祺瑞ニ恨無キモ大總統ヲ援助シ安徽派ヲ討ツハ天下ノ為ナリ聯盟八省既ニ使ヲ子ノ許ニ出シ出兵ヲ通報シ来リアレバ子モ亦自ラ陣頭ニ立チ本問題ヲ解決スベシ而シテ之ニ関スル具体的ノ計画本十三日斬雲鵬ノ来奉ヲ待チ軍事會議ニテ決定シ更ニ小官ニ通報スベシトテ氣勢頗ル盛ナリ果シテ断行スルヤ否ヤ且彼ハ斬雲鵬我党ナリ

ト称シ居ルノ点不可解ナルモ既ニ軍隊ニ出動準備ヲ命ジタルハ確ナリ
二、貝加爾及哈爾濱以西並黒河ヨリノ撤兵及東支鉄道東線及南線ニ依然駐兵スルノ件ニ関シ通告セルニ彼ハ何等意ニ介シ居ラザルノミナラズ却テ北滿ニハ支那軍隊少ナシ日本軍隊ノ駐在ハ東三省ノ為ニモ好都合ナリト云ヘリ徐吉林省長ハ哈爾濱方面ニ於テモ又不逞鮮人ノ取締ニ関シテモ日本人側ニ頗ル不評判ナリ、殊ニ森田総領事ノ如キハ殆ソド持テ余シアルヲ耳ニシアリト告グルヤ彼ハ尙秘密ナレドモ徐ハ近ク罷免スルコトニ決定シアレバ安心アリタシト語レリ

三四四 七月十三日
在奉天佐藤陸軍少將ヨリ
福田參謀次長各宛(電報)
山梨陸軍次官

張作霖ノ安直紛争武力調停ニ決心セル旨ノ談話報告ノ件

(七月十六日外務省写接受)

張作霖ガ本十三日語ル処ニ依レバ彼ハ断然武力ヲ以テ調停スルニ決心セリ之ガ為準備出来次第成ルベク速カニ出發自ラ兵ヲ提ゲテ関内ニ入り兩者間ニ立チ極力調停ヲ試ミントス其ノ出動兵力ハ第二十七、第二十八師ノ全部及第二十九

師ノ騎兵一旅ニシテ第二十八師ハ本日既ニ出動セシメタリ
斬雲鵬ハ今夜來奉ノ筈

三四五 七月十四日 内田外務大臣ヨリ
在中國小幡公使宛(電報)

中国内紛ノ責任ヲ日本ニ帰セントスル唐宝鏐

ノ言ニ対シ反駁ノ件

第三九八号

本月十三日唐宝鏐本大臣ヲ訪問シ種々支那時局ニ関シ談話
中遠慮ナク申セバ從來日本ノ対支態度面白カラザリシ結果
南北分裂引イテ北方ノ分裂トナリ終ニ支那今日ノ如キ政情
紛糾ヲ来タシタリト語リシヲ以テ本大臣ハ是甚解シ難キコ
トナリ他國ノ態度如何ニヨリテ国内ノ動搖不絶ガ如キハ独
立國タル資格ナキニ等シ若シ日本ノ態度ニシテ非ナリトセ
バ何ゾ南北合体堂々トシテ日本ヲ責メザルヤ理窟トシテハ
斯ク申ス外ナシ去日本ノ対支態度ハ常ニ公正ニシテ不偏
不党現ニ武器ノ如キモ之ガ対支輸出ヲ嚴禁シ来リ北方ニモ
南方ニモ供給セザル次第ナリト説キシニ唐ハ今猶何レカノ
一派ニ武器ノ輸送行ハレ居リシト思ヒシニヤ我好意ヲ謝ス
ル旨述ベタルニ付好意如何ノ問題ニアラザル旨ヲ弁明シ置

恐ルヘキ擾乱ニ関シ列強ハ屢ニ屢其ノ使臣ヲシテ其ノ意ヲ
致サシメタル如ク大總統徐世昌閣下カ其ノ至高ノ權威ニ基
キ各地方党派ノ等閑ニ附シツアル人道ノ大義ヲ存セシム
ルニ吝ナラサルヘキヲ信ス然リト雖列國使臣ハ茲ニ支那政
府カ外國人ノ保護ニ関シ重大ナル責務ヲ有シ一朝擾乱ニ際
シテモ其ノ生命財産ニ対シ加ヘラルルコトアルヘキ危害ニ
関シ全責任ヲ負担スヘキモノタルコトヲ特ニ重ネテ声明シ
支那政府ノ最モ嚴肅ナル注意ヲ喚起セムト欲スルト共ニ此
ノ際其ノ何レノ党派ニ属スルヲ問ハス武装部隊ヲ北京市中
ニ入ラシメ若クハ飛行機上ヨリ爆彈ヲ投下セシムルカ如キ
コトナキ様予メ措置セラレムコトヲ希望ス

三四七 七月十四日 在中國小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

日本伊太利ノ安福派援助ニ関シ曹錕ヨリ外交

團ニ申入アリ之ニ対シ我方ノ公正態度ヲ説明
ノ件

第七〇九号

(七月十五日接受)

曹錕ヨリ首席公使ニ対シ七月十日付外交団宛書翰ヲ以テ時

四 安徽直隸兩派間抗戰ニ関スル件 三四七

キタリ夫レヨリ話頭ヲ転ジテ現在ノ紛糾ノ裏面ニ関スル消
息ヲ洩ラン表面安徽直隸兩派ノ勢力争ヒナルガ如キモ実ハ
張作霖、徐世昌、曹錕、陸榮廷、岑春煊、張勳等ノ間ニ予
テ計画セル復辟ヲ遂ゲントスルコトガ此度ノ事変ノ目的ニ
シテ孫文及余等一味ハ此ノ陰謀ヲ看破シ居リタルヲ以テ元
來主義ヲ異ニスルモ復辟反對共和維持ヲ主張セル段祺瑞ト
ハ此ノ点ニ於テ一致セルヲ以テ近來之ト氣脈ヲ通ジ之ヲ擁
護シ来レル次第ナリト語レリ何等御参考迄

三四六 七月十四日 内田外務大臣ヨリ
在米國幣原大使宛(電報)

中国地方治安維持ノ為北京外交団ヨリ中国政

府ニ協同勸告セル旨通報ノ件

第二〇六号

往電合第一二六号ニ関シ七月八日在北京外交団會議ヲ開キ
協議ノ末地方治安維持ノ為メ同日左記協同勸告文ヲ支那外
交部ニ送致スルト同時ニ右写ヲ徐大總統及段祺瑞ニ送付セ
ル趣ナリ

記

「支那ノ諸地方並ニ首都ノ附近ヲ脅シツアル無益ニシテ
局ニ対スル自分ノ立場ヲ述ベ安福派ノ不当処置殊ニ外國関
係ノ事項ヲ訴ヘ外交団ニ於テ右等外國關係不当処置ニ対シ
至急適當ノ処置ヲ講ゼン事ヲ要求シ来リタルガ右外國關係
不当処置トハ日伊兩國ニ関スルモノニシテ伊太利ニ対シテ
ハ同國ノ兵器供給ニ関スル諸報道ヲ掲ゲ居リ日本ニ対シテ
ハ边防軍ノ使用、同軍内ニ日本軍人ノ参加、兵器ノ供給、
三井物産会社ノ援助ニヨリ日本商人ヨリ天津独逸財産ノ一
部ヲ担保トシテ百万弗借入レテ拳ゲ尚在天津日本軍司令官
ガ王郵隆ニ向ヒ北支ニハ千五百ノ日本兵アリ又何時ニテモ
在旅順ノ日本軍六千ヲ北京ニ派遣スル事ヲ得ル旨語レル趣
ヲ記シ右ハ陰ニ安福派ヲ援助セントスルモノナリト云フニ
アリ

右边防軍ノ使用ニ関シテハ貴電第三八七号(二)前段ヲ參酌
シ日本人ノ同軍参加ニ付テハ同軍ト訓練所トノ關係ヲ(脱)
シ且教官ハ最近何レモ該訓練所ニ出動セザル事トナリタル
次第ヲ述ベ兵器金員ノ供給ニ付テハ日本ハ從來ノ態度ヲ變
ズル事ナク現ニ何等斯ル取引ナキ事ヲ明ニシ天津駐屯軍ニ
付テハ北京居留民保護及必要ニ応ジ市中ノ秩序維持ノ為當
地公使館護衛兵ハ何時ニテモ増援シ得ベキモ之ニハ右目的

四八三

以外ニ使用スル事ナキハ勿論他国軍隊トモ密接ナル接触ヲ保チ行動スベキ旨ヲ記シテ機宜説明ヲ加ヘタルノ「ステートメント」ヲ作成シ十四日首席公使ヘ送致シ外交團ノ回覽ニ供セラレ度キ旨依頼シ置キタリ

天津上海広東漢口奉天濟南ヘ転電セリ尚貴電第三八七号濟南ヘモ転電セリ

三四八 七月十四日 在奉天大橋總領事代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

張作霖大總統擁護ノ名ノ下ニ第二十七師第二十八師二軍糧城方面ヘノ出動ヲ命令ノ件

第二三六号 第二三〇号ニ関シ

其後張作霖ハ大總統擁護ノ名ノ下ニ巡閱使総參謀長張作相ヲ總司令トシテ第二十七師第二十八師ノ二箇師團及二混成旅ニ対シ速ニ軍糧城方面ニ出動スベキ旨命令ヲ発シタル結果今ヤ興京遼源県内各地ニ分駐セシ二十七師軍隊ハ陸續当地ニ集中シ彰武北鎮等各地ニ分駐セル二十八師ノ軍隊ハ錦

州ニ集中シツツアリ当奉天ノ警備ハ衛隊旅ヲシテ専ラ其任ニ当ラシメ東辺一帶ノ防務ハ蔡平本鎮守使所屬軍隊遼西一

第一八三号 (七月十四日接受)

上海日本人商業會議所会頭児玉謙次ヨリ左記電報閣下及外務大臣(大臣ヘ電済ミ)ヘ伝達方申出アリタリ

約二百ノ日本軍人ハ辺防軍ノ為ニ援助及指揮ヲナシツツアリトテ連日支那ノ攻撃ヲ受ケツツアリ況ンヤ支那各団体ハ一部ノ英米人ト結託シテ外交團ヲ動カシ日本軍人ヲ辺防軍ヨリ撤退セシメント運動中ナリト承知ス今ヤ排日排貨ノ氣勢当地方ニ於テ下火ナラントスルノ際昨今ノ輿論ヲ以テスレハ再ヒ此氣勢ヲ助長スヘク仮令北方ニ於テ辺防軍援助ノ為本邦ニ於テ得ル所アリトスルモ支那全国ノ輿論ハ著シク本邦ニ不利トナリ全体ノ蒙ムル損害莫大ナルヘシ故ニ帝國政府ハ本件ニ対シ事實無根ナルコトヲ声明セラルルカ又ハ幾分タリトモ右事實アリトスレハ本邦軍人ニ一切干渉セシメサル方針ヲ取ラレンコトヲ切望シテ止マス

三五〇 七月十五日 内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使
在上海山崎總領事 各宛(電報)

中国ノ時局ニ関シ日本攻撃ノ新聞記事及論調

四 安徽直隸兩派間抗戰ニ関スル件 三五〇 三五一

帶ノ守備ハ劉司令所屬ノ警備隊ヲシテ夫々其任ニ当ラシメ鉄嶺遼源及西北一帶ハ二十九師ノ一旅ヲ以テ警備ノ任ニ当ラシムルコトニ決定シ既ニ正式発表ヲ見タリ尚当地京奉線各駅ニハ既ニ数百輛ノ軍用車ヲ集メ何時ニテモ輸送シ得ル様準備完了シ曹銳(曹錕ノ弟)ヨリ廻送セシ貨車数百輛ハ錦州ニ集中シアルカ如シ

斯クノ如クシテ張作霖ハ戦備ニ汲々タル一方盛ニ武装調停ノ通電ヲ発シテ段派ヲ威嚇セル結果段派ハ頗ル狼狽シ御用紙ノ所報ニ依レバ近々斬雲鵬ヲ特使トシテ来奉セシメ張ノ入関ヲ阻止セント腐心シツツアルガ如シ但シ町野ノ談ニ依レバ昨日迄ニハ段派ヨリ何等正式通牒ニ接セザル由ナリ

(終)
在支公使、長春、哈爾濱、齊々哈爾、吉林、牛莊、閔東庁、天津ヘ電報セリ

註 大橋總領事代理七月十三日發第三三〇号省略セリ

三四九 七月十四日 在上海山崎總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

辺防軍ノ日本人將校引上方向上海日本人商業會議所ヨリ請願ノ件

要領電報方訓令ノ件

合第一二九号

支那時局ニ関シ日本ヲ攻撃シ若ハ日本ノ態度ヲ揣摩セルカ如キ貴地各外字及漢字新聞ノ記事及論調要領至急電報アリタシ

在支公使ヘハ

右本大臣ノ訓令トシテ在天津總領事及在濟南總領事ヘ転電アリタシ

在上海總領事ヘハ

右本大臣ノ訓令トシテ在漢口、広東、香港、福州、南京各領事ヘ転電アリタシ

ト附記ノコト

三五一 七月十五日 在上海山崎總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

安徽派ニ対スル日本ノ援助ニ関スル風評ニ対シ打消ノ処置ヲ講ズル様在中國小幡公使ヨリ

各領事ヘ電訓ノ件

第一八八号 (七月十五日接受)

在支公使發本官宛電報第一二〇号

安徽直隸兩軍對立ニ関聯シ日本ガ安徽側ニアラユル援助ヲ
供シ居ル旨ノ報道伝ハリ殊ニ边防軍ニ日本將校參加活動シ
居レリトカ日本ヨリ段派ニ種々ノ名目ノ下ニ金ヲ交付セリ
トカ兵器ヲ供給セリトカノ説ヲ伝ヘ出シタル処右ハ何レモ
全然無根ニシテ边防軍自体トハ別個ノ边防軍訓練所ナル学
校ニハ若干ノ日本將校下士等アリテ边防軍ヨリ送ラルル將
卒ニ對シ教練ニ從事シ居タル事ハ事實ナルモ右ノ次第故辺
防軍自体ノ行動ニハ性質上何等ノ關係ナク然ノミナラズ今
回ノ變亂ニ顧ミテ帝國政府ノ訓令ニ依リ同訓練所附日本人
全部ハ此ノ際全然同所ニ出勤ヲ停止セリ又金ノ融通ニ付テ
モ全然事實ニ非ズ(滙業銀行ニ於テ融通セリトカ仲介セリ
トカ其他借款等ニ関スル報道皆虚報ナリ当館ニ於テハ日本
市場逼迫ノ際殊更容易ニ出来得ベキコトニ非ザル旨ヲモ附
言說明シ居レリ)兵器ニ付テモ同様ニテ日本ハ列國トノ約
束ヲ嚴守シツツアリ就テハ本官ヲ始め各文武官憲ハ苟クモ
兩派ノ何レナリトモ援助セル様解セラルル如キ如何ナル行
動ヲモ嚴禁スベキ旨特ニ政府ノ訓令ニ接シ居ル趣ヲ土台ト
シテ前記諸説ニ對シテハ少シモ顧慮ナク打消ノ措置ヲ講ゼ
ラルル様致シ度シ殊ニ边防軍ニ於ケル日本將校云々ニ付テ

ハ世間ニ於テ鮮カラズ誤解アル模様ニ付此ノ点ハ特ニ明瞭
ニシ置クコト必要ナリト存ズ

本電發送先 上海、南京、蘇州、漢口、広東、汕頭、厦
門、福州、濟南、芝罘、天津、尚上海ヨリ大臣へ参考ノ為
転電セシメタリ

右本官ノ訓令トシテ厦門へ転電アリタシ

三三二 七月十六日 外務省公表

中国内紛ニ対スル日本ノ中立態度ニ関スル件

曩ニ湖南動亂ニ伴ヒ支那政局ノ更ニ一層ノ紛糾ヲ来スノ兆
アルヲ察シ帝國政府ハ夙ニ在支帝國官民ヲ警メ政争ノ渦中
ニ投スルノ疑アル举措ヲ慎ムヘキ旨ヲ注意シ飽ク迄不偏不
党公正ノ態度ヲ維持シタリ爾來支那政局ノ紛糾果シテ拡大
シ今ヤ北支那ニ於テ兵乱ノ慘禍ヲ見ムトシ今後ノ推移殆ト
逆踏スヘカラサルモノアリ然ルニ此ノ變局ノ推移ニ伴ヒ曩
ニハ某々一派カ本邦資本家ニ對シ戰費調達ヲ内議セルヤノ
虚報流布セラレ更ニ最近ニ至リテハ帝國政府ヲ以テ暗ニ或
一派ヲ援助スルモノト為シ動亂ノ進展ト日本ノ關係ニ付種
々ノ流言蜚語ヲ放ソモノアリ甚シキニ至テハ此ノ臆說流言

三三三 七月十六日 内田外務大臣ヨリ
在広東太田總領事宛(電報)

边防軍ニ対スル日本ノ態度ニ関シ軍政府ノ誤

解ニ付同政府ニ説明方訓令ノ件

附 記 边防軍訓練所応募ノ日本軍人員數表

第四九号

貴電第一五九号ニ関シ支那目下ノ變局ニ対スル帝國政府ノ

態度ハ往電合第一三一号(別電) 聲明ノ通ナルニ付貴官ハ

右聲明全文ヲ軍政府当局ニ提示シ軍政府カ流言蜚語ヲ根拠

トシテ直ニ我方ノ態度ヲ非難シ殊ニ之ヲ各国代表者ニ通告

スルカ如キハ帝國政府ノ頗ル遺憾トスル所ナル旨篤ト敷衍

説示セラレタル上速カニ適當ノ方法ニ依リ正誤ノ手段ヲ執

ラレ度旨可然申入レラレタシ尚又(一)參戰軍ハ御承知ノ通り

大正六年支那ノ參戰ト共ニ支那政府自ラ之カ編成ヲ計画セ

ルモノニシテ之カ存廢運用ハ純然タル支那内政ノ事項ニ属

シ從テ帝國政府ハ何等之ニ干渉スルノ意圖ヲ有セサルモ專

ラ對外策戰ノ用ニ供セラルヘキ同軍カ動モスレハ對内政策

ニ利用セラルル虞アリトテ非難ノ声漸ク高調ニ達シタルヲ

以テ大正八年二月帝國政府ハ友好的精神ト日支共同防敵ノ

ヲ基礎トシ日本ニ對シテ抗議ヲ提出センカ為メ集會ヲ催サ
ムトスルモノアリトノコトナルカ誤解モ亦極マレリト謂フ
ヘシ惟フニ支那ノ内訌ニ對スル我不干渉ノ方針公正ノ態度
ハ機ニ臨ミテ已ニ中外ニ宣明セル所ニシテ敢テ反覆スルノ
要ナシト雖如上ノ流說熾ナルニ際シ再ヒ我不偏不党ノ態度
ノ終始渝ラサルコト並在支帝國文武官憲ニ對シ右ノ趣旨ヲ
体シ直接間接一党一派ニ偏スルノ謗ヲ招クカ如キ举措ナキ
様已ニ訓令シタルコトヲ爰ニ宣明シ所謂流說ノ全然根拠ナ
キコトヲ斷言シ置クハ無用ノ事ニ非ザルヘシ
若シ夫レ我陸軍將校カ边防軍訓練ノ為傭聘セラレ居ルコト
ヲ以テ直ニ帝國軍憲カ支那ノ政争動亂ニ干与セルモノナリ
ト臆斷スルモノアルニ至テハ誣妄ノ甚シキモノニテ匡正ノ
必要アリ本来右將校ハ边防軍其ノモノトハ獨立セル訓練所
ニ屬シ始メヨリ該軍隊ノ出動用兵ニ干与シ得サルモノナル
ノミナラス這回ノ動亂ニ先チ帝國軍憲ハ右等將校ニ對シ一
切該軍ノ行動ニ干係スヘカラサルコトヲ命シ其結果右等將
校ハ誠實ニ右訓令ヲ遵奉シテ何等干与スルトコロアラザル
次第ナリ

趣旨ニモ願ミ支那政府ノ注意ヲ喚起シタルニ當時同政府ヨリ同軍ハ国内ニ対シテハ斷シテ何等政治的作用ナキ旨声明シ来レリ此声明ヲ実行スルト否トハ支那ノ責任ニシテ帝國政府ハ之ヲ強要スヘキ義務アルニ非ス加之辺防軍出動ニ関シ此際我方ニ於テ何等積極の措置ニ出ツルハ会々一党一派ニ偏スルカ如キ結果ヲ醸成シ却テ敵正ナル我方ノ態度ニ順応一致セサルニ至ルコト無キヤモ難保ク旁々頗ル慎重ナル考慮ヲ要スルモ支那政府カ上記我方ニ対スル言明ヲ敵守セムコトヲ衷心希望シテ熄マサル次第ナリ(一)同軍ニ傭聘セラシル我將校ハ支那政府ノ自発的要請ニ依リ訓練所ニ在職セルモノニシテ辺防軍其ノモノトハ關係無キ次第ハ今回声明セル通ナリ又其ノ數二百人以上ト謂フハ全然事實ニ反シ僅カニ二十數名ニ過キス(二)坂西少將カ軍事會議ニ列シタリト謂フモ何等根拠無キ報道ナルニ付右等ノ諸点ヲモ指摘シテ先方ノ妄ヲ匡シ置カレタシ

北京上海南京天津漢口へ転電シ福州汕頭香港へ暗号ノ儘郵送アレ

註1 在広東太田総領事七月十四日發第一五九号(同総領事發在中國公使宛第一二二号)省略セリ該電ハ広東軍政府外

付太田総領事ニ指示ノ件

第七一二号

(七月十七日接受)

本使發広東総領事宛第一一三号
貴電第一二二号ニ関シ

本使發大臣宛往電第七〇九号ノ例ニ倣ヒ必要ノ弁明書ヲ軍政府ニ送附セラルル方然ル可シト思考ス為念尙坂西少將ガ軍事會議ニ出席セル事實全然之ナシ又辺防軍訓練所ニアリテ訓練ニ従事セル日本教官ノ人員ハ僅カニ十一名ナリ右大臣へ参考ノ為転電セリ(奉天經由七月十六日後六・一〇)

三五五 七月十六日

在天津南駐屯軍司令官ヨリ
上原參謀總長宛(電報)

中国現下ノ時局ニ関スル列国軍司令官會議ノ

経過報告ノ件

天電第一五〇号

(七月十九日外務省写接受)

本日予定ノ列国軍司令官會議ヲ開ケリ其ノ結果京奉鐵道自由交通ヲ保持スルニ必要ナル手段ハ之ヲ可決セルモ支那軍隊ヲ鐵道沿線二哩以外ニ退去セシムル意見ハ大議論アリテ決定セズ依テ本職ハ支那軍隊カ交戦スル場合鐵道守備隊ハ

交部長温宗堯ガ七月十四日附ヲ以テ広東首席領事仏國總領事宛書面ヲ送り二百人以上ノ日本陸軍武官ガ辺防軍ニ奉職シ居リ該軍ガ内争ニ使用セラレ居リ又坂西少將ハ段祺瑞ノ軍事會議ニ出席セルニ付北京外交團ニ移牒シ日本ノ注意ヲ喚起セラレ度シトノ趣旨ヲ述ベタル旨報告セルモノナリ

註2 合第一三二一号(別電)ハ前掲七月十六日ノ外務省公表ヲ電報セルモノ

(附記)

辺防軍訓練所應聘ノ日本軍人員數表

(大正九年三月調)

- 一 將校同相当官 拾名
- 二 准士官下士 九名

計 拾九名

- 三 前各項ノ外訓練所關係者

坂西少將及其ノ補佐官 計 四名

通計 二十三名

三五四 七月十六日

在中國小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

辺防軍ニ應聘ノ日本將校ニ関スル広東軍政府ヨリ広東首席領事へノ申出ニ対スル措置振ニ

議定書第九条ニ基キ臨機ノ処置ヲ執ルコトヲ言明スルニ留メ鐵道保安ニ関スル意見ノミヲ決議セリ、會議中各軍司令官ノ意図ハ明カニ知り得タリ即チ各国カ時局ニ干渉スルコトナク支那軍隊ニ自由ナル行動ヲ執ラシメ寸時モ早ク時局ヲ解決セシムルヲ得策トスルニ在リ決議ノ結果ハ本職ヨリ首席公使ニ移牒セリ今後ニ起ル必要事項ヲ會議スルニ定メタリ

尚附帶決議トシテ本決議ハ首席公使ヨリ支那政府ニ提出スル迄秘密トスルコトニ申合セラレタリ

以上決議ノ結果楊村守備隊ヲ戰鬪ノ渦中ニ陥ラシメサル為之ヲ要スレハ天津ニ引揚ケシメントスル考ナリ

決議書及會議情況ハ更ニ筆記報告ス

三五六 七月十七日

在中國小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

楊村附近ニ於ケル安直交戦ノ結果京津間電話鐵道不通トナリ其復旧ノ為外交團及北京政府努力ノ件

第七二二号

(七月十八日接受)

楊村附近ニ於テ安直兩軍交戦ノ結果七月十六日朝ヨリ北京天津電話(各國軍用ノモノモ同断)及鉄道全ク不通トナリタルヲ以テ同日午後首席公使外交総長代理ヲ往訪北清事變ニ関スル最終議定書違反ノ廉ヲ以テ抗議シ速ニ復旧方書面ヲ提出シ交渉セルモ埒明カザリシ趣ヲ以テ緊急ニ同議定書調印国ノ公使會議ヲ開キ種々討議ノ結果応急ノ措置トシテ本使ヨリ在天津各國守備軍首席司令官南少將ニ対シ各司令官ト合議ノ上最モ簡單ナル特別列車ヲ編成シ至急天津ヨリ北京ニ停滯セル郵便物ノ輸送ヲナス様取計方外交団ノ希望トシテ無線電信ヲ以テ依頼スルコトニ決定シ既ニ散會セントシタル際米国公使ガ天津ヨリ接受セル無線電信ニ依リ日米英仏四国軍隊ヨリ選出セル將校一名ニ右四国ヨリ各六十名護衛ノ下ニ一特別列車同日午後四時十五分天津ヲ発シ北京ニ向ヘルコトヲ知り尚之ト殆ド同時ニ外交部ヨリ首席公使ニ対シ支那政府ハ全力ヲ尽シテ同日ノ夜行列車ヲ北京ヨリ出發セシムベキニ付十七日ヨリハ北京天津間ノ交通ヲ復旧スベキ旨電話ニテ通報アリタルヲ以テ前議ヲ翻シ一先ヅ右等ノ成行ヲ見ルコトトナリタリ

在天津總領事へ転電セリ(奉天經由七月十七日後一〇発)

等ノ表題ヲ用ヒ日本ガ借款關係上直接間接段ヲ援助シ殊ニ其資金ヲ供給シ且訓練ヲナセル有害無益ノ辺防軍ヲ内争ニ用ユルヲ默認スルハ畢竟段ヲ援助スルニ異ナラザルノミナラズ日本ハ西比利亞撤兵ヲ利用シ滿州ニ於テ張作霖ヲ牽制シツツアリト誣ヒツツアルノ外例ノ「北京デーリー」ニユース「ノースチャイナ、スター」等モ何等特ニ論議スルトコロナシ(奉天中継十七日前一〇、五)

三五八 七月十七日 在天津船津總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

奉天軍ハ天津ヲ經テ北倉ニ向ハントシツツアル旨報告ノ件

第一七一号 (七月十七日接受)

奉天軍ハ愈々七月十七日午前二時ヨリ前後八回ニ亘リ中央停車場ヲ通過シ北倉ニ向フ筈ナルガ目下(十七日午前八時)尚中央停車場ニアリ通過セル兵數ハ約三千九百名軍馬二百五十頭大砲二十砲八門機關砲十門彈藥及軍需品積載貨車三輛等ニテ新停車場附近ハ非常ニ混雜シ同地一帯ノ人民ハ昨日晩方ヨリ殆ド徹宵陸続トシテ外国租界ニ避難スルモノ非

三五七 七月十七日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国時局ニ対スル日本ノ態度ニ関スル北京漢字及外字新聞ノ記事及論評報告ノ件

第七一七号 (七月十七日接受)

貴電合第一二九号ニ関シ近来北京ノ各漢字新聞ハ何等特ニ日本ヲ攻撃揣摩スルノ記事論評ヲ載スルモノナク戒嚴宣告以來殊ニ然リ七月十六日ノ亞東新聞ノ如キハ当方ヨリ東方通信社ヲシテ公表セシメタル往電第七〇九号本使ノ陳述書ヲ掲出スルニ際シ冒頭最モ条理ニ明カニ最モヨク日本ノ立場ヲ了解セル文句ヲ附記シ居ル外別ニ雜評欄ニ於テ日本ノ公明ナル態度ヲ知ラントセバ別項日本ノ陳述ニ徴セヨト言ヒ又外字新聞モ概シテ平靜ニシテ「京津タイムス」ハ其北京通信員ガ過日進ンデ当館弁明書ノ掲載ガ誤解ヲ解クニ利アルベキヲ申出デ之ヲ実行シ其後又辺防軍訓練所ノ日本人教官ノ引揚ヲ命ジタルヲ賞讃セル通信ヲ為セル一方其社説主筆「ウッドヘッド」ハ極力安福派攻撃員佩孚援護ニ努メ之ニ近来同人ノ常套語タル日本攻撃ヲ搗キ交ゼ或ハ「段祺瑞ノ日本軍」又ハ「日本ハ播キシ種ノ收穫ヲ為シツツアリ」

常ニ多カリシ

在支公使へ上海經由転電済

三五九 七月十七日 在奉天赤塚總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

張作霖武力調停ノ為三軍ヲ率イ北京ニ向フ旨

談話ノ件

第二四三号 (七月十八日接受)

時局ニ関シ十六日夜張作霖ノ本官ニ語りタル要領左ノ通飽迄武力調停決心ニテ自ラ総司令トナリ三軍ヲ率イテ北京方面ニ向ハントス兵ノ一部ハ既ニ山海關ニ向ケ進發シ他ハ近ク出發ノ筈ナリ調停ノ目的ハ段派ノ徐樹錚ト曹錕派ノ呉佩孚トノ免職ヲ実行セシメテ大總統ノ威信ヲ立テ同時ニ段曹双方ノ面目ヲ維持セシメ以テ時局ヲ平和ニ解決セントスルニアリ段祺瑞ハ名利ニ淡泊ニシテ当今ノ人物ナリ只其ノ周囲ノ人物ニ過ラレ時局ヲ混乱状態ニ陥ラシメタルハ遺憾ナリ此ノ際段ノ反省ヲ促スハ武力調停ノ根本義ニシテ幸ニ調停効ヲ奏スルニ於テハ段ト共ニ北方派ノ結束ヲ固メ進ンデ南北和平統一ニ努力セン考ナリ今ヤ我一味ノ直隸、江

蘇、河南、江西、湖北、甘肅ノ各督軍兩江巡閱使綏遠察哈爾ノ兩都統モ同一ノ目的ヲ以テ既ニ各々出兵シ若クハ出兵スルトコロアラントス果シテ所期ノ目的ヲ達シ得ルヤ否ヤ成敗利鈍ハ敢テ顧ミル所ニ非ズ云々ト語り暗ニ調停成ルト成ラザルトニ拘ラズ何レニシテモ成算アルガ如キ意ヲ仄カセリ察スルニ張ハ北京ニ於ケル調停失敗ニ帰シ此ノ儘引込ムニ於テハ漸次自己ノ威信勢力ヲ失墜シ終ニハ其ノ地位ヲ奪ハルルコトナキヤヲ恐レ終ニ以上ノ決心ヲナスニ至リタルモノノ如シ 公使ニ電報シ関東長官在滿各領事へ郵報ス

三六〇 七月十八日 在中国小幡公使ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

安直戦争ガ安福系敗北ノ形勢ニ逆転シタル状

況報告ノ件

第(欠)号(註1) (七月十九日接受)

安直兩軍ノ戦況逆転直下シタルハ七月十七日以来高碑石方面ニ於ケル第十五師ハ直隸軍ヨリ後方ヲ脅サレ杏林店ヲ守備セシ約二個中隊ノ第十六師兵ガ直隸軍ニ投降シタルト第十五師ノ主力退却ヲ余儀ナクセラレタルト辺防軍第一師ト同志打トナリ急激ナル変化ヲ来タシタルモノナリトノ説有

註1 此ノ欠号ノ電報ハ第七二六号又ハ第七二七号ト推セララル
2 定国軍ニ就イテハ小幡公使七月十二日発第六九〇号ニ左ノ報告アリ

「段派ハ既ニ定国軍ヲ組織シテ辺防軍第一、第三及陸軍部第九第十三第十五師並徐樹錚ノ率ユル西北辺防軍ヲ之ニ編入シ」云々トアリ

三六一 七月十八日 在英国永井臨時代理大使ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

中国ノ紛争ヲ日本ノ責任ニ帰セントスル英國紙ノ報道振及オブザーヴァー紙掲載ノプラント投書報告ノ件

第六二二号 (七月二十日接受)

北清動乱ニ関シテハ北京天津等ヨリノ断片的電報当地新聞ニ散見スルノミニシテ広ク注意ヲ喚起スルニハ至ラザルモ該二地通信ハ予テヨリ大体排日筆調ヲ帯ビ今回モ亦動乱ハ親日の政派ト國外督軍トノ軋轢ニシテ原因北京方面ニ於ケル我活動ニアルカノ感想ヲ読者ニ与ヘツツアリ今後時局ノ發展ニ関シテモ我方ニ於テ逸早く事態ノ真相竝我態度ヲ一般読者ニ詳細(脱)ニアラザレバ紛争複雑ヲ加フルト共ニ

リ当地総司令部ニ於テモ段祺瑞等殆ド挽回ノ策ナキモノノ如シ十八日朝迄ノ狀況ハ

(1) 西方京漢線ノ定国軍主力ハ十七日琉璃河ニ退却シ第十五師ノ約千五百名ハ十七日夜汽車ニテ南苑ニ歸リタルモノノ如シ一説ニ依レバ兩軍ハ琉璃河方面ニ於テ停戦シ講和協議中ナリト云フ説モ有リ真偽明カナラズ

(2) 中央固安方面ハ確報ナキモ既ニ京漢線方面ニ退却シタル以上是又前敵ヲ支フル事不可能ナル可シト察セララル

(3) 東方京奉線方面モ定国軍ハ楊村ヨリ郎坊ニ退却中ナリトノ事ニテ直隸軍ハ約二千ノ奉天軍ノ援助ニ勢力ヲ得北倉ヨリ郎坊攻撃ニ移リツツアルモノノ如ク且直隸軍ノ一部ハ郎坊ノ後方ヲ脅サントシツツアリトノ説アリ但シ未ダ確報ニ接セズ

要之ニ最初ヨリ疑ハレシ第十五師ノ向背ニ対シ段派ニ於テハ余リニ安心シタル結果竝ニ張作霖ノ直隸軍援助確定ハ斯ノ如キ形勢ノ逆転ヲ来タシタルモノト認メラル北京城門ハ十八日朝ヨリ全部閉鎖シ城内ノ人心不安ニ陥リツツアリ天津トノ鉄道依然不通 天津奉天広東漢口南京濟南ニ転電シ上海ヨリ蘇州及杭州へ転電セシメタリ

我方ニ不利ナル印象益々深カルベキ虞アリトス

動乱ニ関スル情報ハ上記ノ如ク之ヲ欠キ当地新聞紙上未ダ重要事項トシテ取扱ハルル形跡ヲ認メザリシ処本十八日「オブザーバー」紙ハ一欄余ニ亘ル「ブランド」ノ投書ヲ掲載シタリ曩ニ「タイムズ」紙上ノ論文ニ鑑ミ東洋通トシテ重キヲ置カルル同人ノ論評ハ相当影響ヲ他ニ及ボスベキモノト思考ス同評論ハ支那内乱ハ結局各派権勢獲得ノ争鬪ニ過ギズ資金ヲ他ニ仰ギ得ルモノ兵ヲ擁シテ克ク覇権ヲ手中ニ収ム而シテ時局救済ノ緒ハ懸リテ日本ノ対支政策ニアリ支那ノ分裂ニ我利ヲ取メントスル日本軍閥ノ政策継続セバ絶望ノ外ナク幸ニシテ其ノ反対ニ日本政府ガ隣邦扶掖ノ為英國其ノ他ト誠意尽力スルニアラバ前途ニ光明ヲ認ムベシ支那ニ中心人物ナキハ悲シムベク袁世凱一九一六年ノ起業ハ民衆ニ福祉ヲ齎シタランニ日本ハ之ヲ阻害シタリ現大統領ハ温厚ノ学究ニ過ギズ独力濟国ノ大業ヲ遂グルノ資ニアラズト述ベ日英同盟ニシテ更新ニ当リ支那共同救済ノ方法ニ関スル何等明確ナル規約ヲ含ムニアラズンハ同盟存続ノ意義ヲ失フベシトノ趣旨ヲ詳説シ尚日支軍事協定ハ辺境防備ノ目的ヲ離レ事実上日本ガ支那主権ヲ侵害スル道具タ

ルニ終レリト評シテ其ノ廃止ヲ懲瀆スル等全論ヲ通ジ支那内争一般ノ責任ハ日本從來ノ政策ニ在ルモノトノ感ヲ誦者ニ与ヘタリ

三六二 七月十九日 内田外務大臣ヨリ
在天津船津總領事宛(電報)

旅順ノ第十三驅逐隊ノ二隻ヲ天津ニ派遣ノ旨
通報ノ件

第六七号

貴地方ノ情勢ニ鑑ミ不取敢在旅順第十三驅逐隊ノ二隻ヲ天津ニ派遣シ貴地及在北京帝國官憲並駐屯軍ト連絡ヲ保持シ以テ居留民ノ保護ニ任セシムルコトナレリ
北京へ転電アリタシ

三六三 七月十九日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

安直間調停ノ為張懷芝等天津ニ赴ケル旨報告
ノ件

第七二八号

七月十九日直隸側ニ対シ再度ノ調停ヲ試ムル為張懷芝斬雲鵬姜桂題等数名天津へ向ケ出発セリ

益ヲ増スノミニ付此際万事ヲ諦メ潔ク段自身都テノ官職ヲ抛ツト同時ニ敵派ヨリ目指サレ居ル段派一同皆共ニ其職ヲ辞シ野ニ下リ徐ニ再挙ノ期ヲ待ツ様昨夜三更三時間以上ニ渡リ懇々段祺瑞ニ説得スル所アリタル結果段モ最後ノ決心ヲナシ今十九日早朝其旨文書ヲ以テ大總統ニ呈請シ同時ニ戦線ニ発令シタリトノ事ナリ尚王鄧隆ハ又京奉線方面ニ出動セル徐樹錚ハ右ニ不同意ナルガ故ニ如何ナル態度ニ出ヅルヤ知り難キモ段ガ既ニ右ノ決心ヲナシ其ノ手続ヲ了シタル以上其通り取り運ブ外ナカル可シト附言シタル由ナリ惟フニ右ノ通り取り運ババ之ニテ今回ノ紛擾ハ一段落ヲ告グルコトト察セラル

三六五 七月十九日 在天津船津總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

排日暴行ノ為抑留中ノ学生等ノ釈放及曹錕
ノ排日煽動ニ関シ報告ノ件

第一八一号

(七月十九日接受)

天津上海広東奉天へ電報セリ

三六四 七月十九日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

段派敗衄ノ善後措置ニ関スル曹汝霖王鄧隆ノ
談話報告ノ件

第七二九号(至急) (七月二十日接受)

七月十九日曹汝霖ハ本使ヲ來訪シ種々手違ノ為段派ノ軍隊ガ大敗ニ近キ敗衄ヲ見ルニ至レルハ残念至極ニ耐ヘザルモ今日トナリテハ全然取り返シノ附カザル事ニテ如何トモシ難キ次第ナリ実ハ今日アルヲ慮リテ自分ニ於テ調停ヲ試ミタル次第ナルモ功ヲ奏セズ之又遺憾千万ノ事ナリト述ベ然シ今日ト雖モ尚戦闘ヲ停止スルニ於テハ僅ニ最後ノ没落ヲ免ル可キ一縷ノ望アル訳ナレバ大總統ニ説キ双方ニ対シ停戦命令ヲ出サシムル事ニ尽力シ大總統モ承諾シタレバ今日中ニハ右命令發布アル筈ト信ズ既ニ手遅レニハ相違ナキモ之ニテ何トカ段ノ自滅ヲ防グ方策ヲ考ヘツツ有ル次第ナリト語レリ

尚東少將ノ内報スル所ニ依レバ王鄧隆ハ大勢ノ段派ニ不利ナルヲ察シ此上干戈ヲ収メザルニ於テハ益々同派ノ為不利曩ニ排日暴行ヲ逞ウシタル結果抑留中ノ男女学生新聞記者商務總會書記等合計十余名ハ最近恰モ審判庁ニ於テ審理進行中ノ処今回安直兩派愈々衝突シタル為前記学生等ハ七月十四日直隸督軍及省長ノ命ニ依リ無条件ニテ全部放免セラレタリ其ノ原因ニ付探究シタル処元來前記学生等ハ排日ノ急先鋒タルト同時ニ盛ニ安福俱樂部及段祺瑞ノ一派ニ対シテモ最熱烈ニ反對攻撃シタル連中ナルヲ以テ此際之ヲ放免シ更ニ一層熱烈ニ段派攻撃ノ宣伝ヲナサシメントノ魂胆ニ他ナラズ過日曹錕ガ外交團ニ向ツテ京綏京漢引当テノ借款其他ニ関シ常識アルモノニ容易ニ信スル能ハザル如キ荒誕無稽ノ捏造説ヲ理由トシテ日本ヲ引キ合ヒニ出シ抗議ヲ提出シタルハ各方面ニ於テ今尚排日ノ氣勢存在スルヲ利用シテ大イニ段派排斥ニ油ヲ注ガントノ趣旨ニ他ナラズ本官ハ我方ノ一英字機關新聞ヲ利用シ其ノ誤解ヲ指摘シテ弁明且駁撃ニ力メ居レリ

三六六 七月二十日 内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛(電報)

安直動乱ノ際在留邦人保護方ニ付訓令ノ件

附記 同日内田外務大臣宛小幡公使宛電報第四二二号

合第一四一號

今回安直紛争ニ伴フ動乱勃発ノ為在留帝國臣民ニ危害ヲ及ボスノ虞アリト思考セラルル処右ニ付テハ機宜ニ応ジ相当御措置中ノコトトハ思考スルモ此際在留民ノ保護ニ就テハ一層御注意相成リ貴地方駐在ノ我軍隊及軍艦指揮官及各国領事アル場合ニハ必要ニ応ジ随時御打合ノ上万事遺漏ナキヲ期セラレタク万一危害発生シタル場合ニ於テハ直ニ事実ヲ調査シ之ヲ報告スルト共ニ臨機応急ノ措置ヲ採ラレタキモ支那官憲ニ対シ賠償謝罪等ヲ要求スル場合ニハ一応請訓アリタシ

(附記)

七月二十日内田外務大臣發小幡公使宛電報第四一二号

第四一二号

在支領事官へ左ノ通訓電セリ御参考迄(以下略)(註)

註 右(以下略)ノ部分ハ前掲ノ合第一四一號全文ナリ

三六七 七月十九日 在奉天赤塚總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

張作霖不日上京シテ安直間ノ調停ヲ為スベキ

旨談話ノ件

第一七三號

(七月二十二日接受)

貴電第四九号ニ関シ

本官目下旅行不在中ナルヲ以テ本二十一日森岡ヲシテ岑春煊(同人病氣中ノ為文群代理トシテ列席)及温宗堯ニ会见セシメ貴電合第一三二号ノ御声明ヲ示シ同時ニ貴電第四九号ノ趣旨ヲ敷衍シ懇々説明ヲ与ヘ正誤ヲ要求セシメタル処兩人ハ森岡ニ対シ左ノ通り応答セリ

時局ニ関シ軍政府ガ外国駐支代表者ニ対シ日本ノ態度ヲ批難スル公文ヲ送リタルハ決シテ軍政府ガ謠言ヲ輕信セルニ依ルモノニアラズ実ハ北京駐劄外國公使中一二(其ノ名ヲ云ハズ)日本ノ援段政策ニ関シ直隸派ノ有力者ニ内報シ來レルモノアリ且曹錕ヨリモ日本ノ援段政策ヲ批難スル電報及公文ヲ軍政府ニ送リタル等ノ關係上岑春煊ニ於テモ過去ニ於ケル日本ノ遣口ニ鑑ミ右報告ヲ事実ト信ジタルニ依ルモノナルガ本日日本領事ノ打解ケタル説明ヲ聞キ一切ノ疑念氷解シタルヲ以テ早速例ノ照会文ヲ訂正スル公文ヲ在広東首席領事ニ發送スベク又省長御用通信社週循社ヲ通シテ日本ノ公明ナル態度ニ関スル記事ノ原稿ヲ広東各新聞ニ配達セシメ同時ニ軍政府御用新聞タル中華新報、新民國報及

四 安徽直隸兩派間抗戰ニ関スル件 三六八

第二五三號

(七月二十日接受)

七月十九日張作霖ノ本官ニ談話セル要領左ノ通り
北京方面ニ於ケル戦況ハ边防軍第一師及同第三師並ニ第十五師カ直隸軍ニ投降シタルヲ以テ最早戦争ハ終リヲ告ケタルモノト見テ差支ナク自分ハ不日上京シテ調停ノ任ニ當リ内閣ヲ組織セシメテ南北ノ和議ヲ促進セシムル考ナリ段祺瑞ノ地位、名譽ニ関シテハ極力之ヲ擁護スヘク其意味ヲ段ニ打電シタルニ段ヨリ上京調停方懇望ノ來電アリタルニ付徐大總統、靳前總理及段督辦ニ対シ自ラ上京シテ調停ニ任スヘキ旨電報シ置キタリ云々ト自ラ電報ヲ示シテ語レリ
右張作霖ノ靳前總理宛電報ハ概要別電ノ通りニテ段祺瑞宛電報モ略々之ト同一意味ノモノナリトス

在支公使、天津へ転電シ関東厅长官、在滿各領事へ郵報セリ

註 別電省略

三六八 七月二十一日 在広東太田總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国国内紛争ニ対スル我政府ノ公正ナル態度ヲ
軍政府ニ説明シ其諒解ヲ得タル旨報告ノ件

広東「タイムズ」(同紙ハ曾テ伍廷芳ノ機関ニ係リ常ニ現在ノ軍政府ニ反対セシ為過般約一ヶ月間停版ヲ命ジ最近軍政府ヨリ月千弗ノ補助金ヲ与ヘテ全然之ヲ支配スルコトトナリタリト語レリ)ニハ直接命令シテ日本厳正中立ニ関シ特別ノ記事ヲ掲ゲシムベク更ニ広東国会並省議會等ニ対シテモ日本ノ態度ニ関シ充分弁明ヲ与フルコトトスベシ
边防軍ノ对内作用阻止ニ関スル日本政府保障云々ニ関シテモ今日事情初メテ判明シ日本ガ此ノ際同軍ニ対シ積極的措置ヲ執ル能ハザルコトモ十分了解シ至極尤ト考フ今後日本ノ態度ニ関シ何等疑起ル場合ハ首席領事ニ照会スル前ニ日本領事ニ照会スベシ今日謠言ノ製造元タル北京上海ニ関シテハ軍政府ノ力及バザルモ当地方軍政府ノ関スル限ニ於テハ謠言ノ取締ニ十分努力スベシ上海「ガゼット」ハ孫文伍廷芳等ノ機関紙ニ係リ昨今盛ニ謠言ヲ捏造シ広東「タイムズ」日本中傷記事ハ大概同紙記事ノ転載ナルヲ以テ特ニ御注意然ルベシ尚此ノ機ヲ利用シ從來日本及支那ノ間ニ蟠マルレル一切ノ誤解ヲ解キ新タナル親善關係ヲ開クベク兩國互ニ努力シタキモノナリ云々

右ハ彼等ノ云フ通り実行シ具ルルヤ否ヤ多少疑アルモ当方

要求程度以上ニ先方ヨリ進ンデ申出デタル關係上相当ノ期待ヲ持チテ差支ナカルベシ
在支公使上海へ電報セリ

三六九 七月二十一日 在広東太田総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

日本將校ノ辺防軍奉職ニ関シ曩ニ広東政府ガ
仏国領事ノ配慮方要請セルガ此度右要請ヲ取
消シタル件

第一七五号 (七月二十二日接受)

拙電第一七三号ニ関シ温宗堯ハ本二十一日附ヲ以テ当地首席領事タル仏国領事宛左記要領ノ公文(英文)ヲ発シ其写ヲ当館ニ送リ来レリ
辺防軍ニ対スル日本ノ保障ニ関シ日本ノ注意ヲ喚起セラルル様北京外交団ニ御移牒方本月十四日附ヲ以テ貴意ヲ得置キタル処今回日本当局ヨリ辺防軍訓練所関係日本將校ハ既ニ日本政府ノ訓令ヲ奉ジ登校ヲ停止シタルコト該所ハ辺防軍其物ト別箇ノ施設ナルコト辺防軍其物ニハ日本將校ハ未ダ嘗テ関係シ居ラザルコト斯ノ如クニシテ日本ハ絶対ニ段祺瑞ヲ援助シ居ラザルコトヲ通知之アリ右ニ依リ日本ハ今

事件ノ発頭人トモ目スヘク而モ直隸派ニ於テ引渡ヲ迫ラントシツツアル(極刑ニ処スル為ト噂セラル)徐樹錚、曾毓雋、姚震、朱深及丁士源ノ五名ハ刻々危難ノ身辺ニ迫レルヲ感シ二十一日夜中ニモ何処カヘ避難スルコトニ決定セリト云フ尚段祺瑞、段芝貴ノ兩人ハ此際他ニ難ヲ避クルカ如キコトヲナサズ飽ク迄自宅ニ踏止マリ一身ヲ其ノ運命ニ托セント決心セルヤニ伝聞ス外間一般ノ噂ニ依ルモ直隸派ヨリハ之等兩人ニ対シテハ左程悪意ヲ有セズ又大總統モ極力之ヲ保護スベケレバ其ノ身命ニ危害ヲ加ヘラルル様ノコトハ万々ナカラント推察セラル因ニ王郅隆ハ大倉ニ曹汝霖ハ三井ニ既ニ夫々避難シアリト云フ此一項ハ本人等ノ迷惑ト相成ルヘキニ付暫ラク秘密ニ附セラレタシ

三七一 七月二十四日 在天津船津総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

直隸派ガ英米側ヨリ資金ノ融通ヲ受ケタリト
ノ風説ニ関シ報告ノ件

第二一四号 (七月二十五日接受)

在支公使宛第一一六号
貴電第八四号ニ関シ直隸派カ英米側ヨリ資金ノ融通ヲ受ケ

回支那直安兩派ノ争鬪ニ関シ敵正中立ヲ守ルベキコトヲ確信スルニ付前回ノ要求ニ関シ最早北京外交団ヲ煩スノ必要無し

右公文ニハ辺防軍内乱使用防止ニ関スル日本保障説ノ真相ニ関シ何等言及スル所ナキモ支那当局者ノ立場トシテ此点ヲ取消スコトハ威信上忍ブ能ハザル所ナルベク既ニ前回ノ要求ヲ撤回シタル以上当方ノ説明ヲ十二分ニ理解シ居ル次第ナルヲ以テ此ノ上追窮セザルヲ穩当ト愚考ス御異議モ之アラバ御電報ヲ請フ
在支公使へ電報セリ

三七〇 七月二十二日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

段派ノ徐樹錚曾毓雋等ハ身辺ノ危険ヲ感ジ避
難セントシ段祺瑞段芝貴ハ自宅ニ止マリ居ル
旨報告ノ件

第七三六号 (七月二十四日接受)

往電第七二八号所報ノ通り斬雲鵬外数名此程天津ニ下リ目下最後ノ調停条件ヲ議セントシツツアル一方直隸派ノ段派ニ対スル要求条件ノ条項モ漸次ニ明白トナルニ連レ今回ノ

タリトノ風説ハ当地ニテモ専ラ噂サレタルニ付内探ヲ遂ケタル処開灤鈔務局ヨリ五十万弗ヲ融通シタリトノ説アルモ果シテ事実ナルヤ否ヤ未タ之ヲ突止ムル能ハス尤モ先般当地支那銀行ニ対シ軍用金ノ調達ヲ命シタル際大小銀行ヨリ合計二十万弗ヲ集メ中国交通兩銀行ヨリ三十万弗塩商ヨリ五十万弗其ノ外曹錕所有ノ紡績株七百ヲ抵当トシテ中国実業銀行ヨリ若干ノ融通ヲ受ケタル由ナリ尚引続キ探訪中ナルモ不取敢
外務大臣ニ転電セリ

三七二 七月二十四日 在天津南駐屯軍司令官ヨリ
福田參謀次長宛(電報)

安直戦後ノ政局ノ動向ニ関スル観測及我対中
国政策ニ関スル意見具申ノ件

天電第一七八号 (七月二十七日外務省写接受)

今回ノ政変ニ於ケル觀察及米人ノ活動ハ七月二十一日特報一八八ノ筆記報告及天電一七一号ヲ提出シ置キシカ尚其後ノ觀察及卑見左ノ如シ
一、段祺瑞ハ各職ヲ失ヒ元勳トシテ取扱ハルヘシ今後ノ威力ハ到底政局ニ容喙シ能ハザルヘシ

二、徐樹錚、丁士源、曾毓雋其他数名ハ亡命ノ外ナシ
三、辺防軍及西北軍ハ解散セシメラルルナラン
四、安徽派ノ軍人側ハ殆ト全部失脚シ（六字不明）要職ハ悉ク直隸系乃チ親米派ノ独占ニ皈スヘシ天津ノ諸官衙ハ安徽派ノ全部ヲ敵レリ中央政府ハ周樹模ノ出現ニヨリテ一段落ヲ告クルニ至ルヘシ

五、時局ノ後始末ニハ内閣問題国会開催安徽派処分勲功行賞等尚多クノ事項ヲ存スヘク一段落後張作霖、曹錕ノ勢力争トナルヘク内外間ニ普伝セラレツツアリ
財政問題ニ関シテハ結局何等カノ方法ヲ以テ借款ヲ起シテ彌縫スルニ至ル可シ支那和平問題ニ関シテハ孫文、唐紹儀、唐繼堯一派ノ南方新政府ヲ認めズシテ陸榮廷、岑春煊一派ト通シ陸榮廷ヲ副總統トシテ和平解決ヲ計ルカ如ク之ニ対シ唐繼堯ハ雲、貴兩軍ヲ以テ四川ノ熊克武ヲ庄シ北方ト和セザル可シ而シテ北方政府ハ此際王揖唐ノ総代者ヲ免シ陝西督軍陳樹藩ヲ許蘭洲ト交代シ新ニ湖南督軍ヲ任命シ陝西、湖北、湖南方面ヨリ熊克武ヲ後援スルノ策ニ出ヅ可シ又外交ハ親米政府成立ノ結果トシテ軍事協定ノ廢棄山東直接交渉ノ拒絶対日借款ニ対スル責任回避日支合辦事業ノ

ズスクノ如クシテ今後数年ヲ經過シテ我カ国力ノ培養ヲ怠ラザレバ地理的關係上最後ノ勝利ハ帝国ニアリト信ス
~~~~~  
三七三 七月二十五日 在天津船津總領事ヨリ内田外務大臣宛（電報）  
張作霖及靳雲鵬天津到着ノ件  
~~~~~  
第二一八号 (七月二十六日接受)
張作霖ハ七月二十五日午後四時靳雲鵬ト共ニ当地ニ到着セリ
在支公使へ転電セリ

三七四 七月二十九日 在北京坂西少将ヨリ福田參謀次長宛（電報）
中国政局ノ推移ニ関スル觀察及对策ニ付具申ノ件
坂西極秘電第六十七号 (七月三十日參謀本部著)
東少将宛二十一日發貴電三一九号敬承 今二十七日東少将ノ發意青木中將ノ同意ニヨリ今後ノ政局カ変移スル觀察並ニ之カ对策ニ就キテハ各個ニ意見ヲ報告スルコトナレリ仍テ愚見ヲ陳ス
(-)今後ノ政局ヲ觀察センニ先ツ直隸派ヨリ提出セル六要求

四 安徽直隸兩派間抗戰ニ関スル件 三七三 三七四

庄迫等ノ外特ニ無遠慮ナル米国式外交ヲ發揮シ来リ日支間題ヲ益々紛擾セシムルニ至ルナラン排日運動ハ直隸派ハ米國ノ煽動ニヨリテ再發シ之レ日本ノ对支貿易ニ大打撃ヲ受クルニ至ラン
卑見

緊急ノ処置トシテハ張作霖ヲ懷柔シテ段祺瑞ヲ甚タシク失脚セシメザル如クスルヲ要ス、将来ニ関シテ英、米仏等ノ希望ハ支那ヲ迅速ニ統一セシムル為國際管理ノ下ニ置カントスルニアルカ如キモ仏國ノ前内閣議長「パンルヴェ」氏カ其ノ感想トシテ反復本職ニ語レル所ニ依レバ支那ノ統一ヲ急務トスルニアリ云々トノ意モ亦國際管理ト同一ニアラザルカト思ハル、然ルニ日本トシテハ支那ヲ國際管理ノ下ニ置クハ頗ル不利トスル所ナルヲ以テ之ヲ聽キ容ルベカラズ、之カ為(イ)所謂日本ノ軍閥ナルモノニ対スル外人ノ誤解ヲ解クコト(ロ)日本ハ侵略的意圖ナキコトヲ支那人ニ了解セシメ日支一致ノ必要ヲ自覺セシムルコト而シテ目的ヲ達スル為ニハ帝國ハ最モ公平ナル態度ニ出デ商工其ノ他ニ於テモ日支人利益折半主義ニ出デザルベカラズ即チ一般國民ノ对支那人感想ヲ強圧のナラズ平和的發展ニ導カザルベカラ

ニ就キ研究スルヲ便トス
第一、西北辺防軍及其軍所屬機關全部ノ撤廢
第二、段祺瑞ヲ北京北方湯山ニ位置セシメ其処分ハ國民大會ノ建議ニ待ツ
第三、安福系三総長徐樹錚、丁士源ヲ引渡ス
第四、王揖唐其他安福派重要人物ノ公權ヲ剝奪ス
第五、国会ノ停会
第六、段芝貴、傅良佐、吳炳湘、王郅隆、梁鴻志、曹汝霖、陸宗輿、章宗祥ノ懲罰

此条件ハ素ヨリ多少ノ変革ヲ経ヘキモ同派側ニテ目的トスル所ハ段祺瑞直轄軍隊及其機關ヲ変改シ其乾児ニシテ安福派臭味ノモノヲ根絶シ兼ネテ段ヲシテ曹錕ニ対シ戦端ヲ開カシメタルモノヲモ倒サントスルニアル如シ
就中曹、陸、章ノ三人ヲ懲罰セントスルハ前年帝國カ寺内内閣時代単独ニ応シタル借款ニ対シ支那人一流ノ考ヲ以テ彼等カ多額ノ「コンミッション」ヲ取り私腹ヲ肥シタリトノ嫉妬心ト旧交通系カ此機ヲ利用シテ親日派ノ彼等ヲ下シ今後排日乃至親英、親米ヲ適宜ニ唱ヘテ政界ト財界ノ牛耳ヲ握リ将来「コンミッション」主義ヲ發揮シ更ニ此上利ヲ

得ントスルニアルハ明ニシテ之カ為旧交通系ノ策源地タル交通銀行カ今回自派ノ發達ヨリ直隸派ノ為ニ有力ナル諜報機關トナリタル事実アリタルノミナラス張作霖入京保定ニ赴クヤ直隸派首領ニ向ヒ徐樹錚ハ段祺瑞ニ對シ南北統一ノ為ニ十師ヲ編成スルノ要アリ此費用ト兵器トヲ日本ニ負フ報酬トシテ日本ニハ更ニ東三省ノ利權ヲ与フヘントノ意見ヲ具申セシ事実ニ注意スヘントノ伴言ヲ放チ張ヲシテ徐樹錚ヲ倒ス為直隸派ト同一行動ヲ取ルヘク誓ハシメタリトモ伝ヘラレ要スルニ今回旧交通系並進歩系汪大燮熊希齡等モ亦活動スル所アリシハ事実ニシテ此傾向ハ蓋シ帝國ト支那トノ關係ヲ疎遠ナラシメシムルノミナラスマタ排日機運ヲ作ラントスル策タルヲ忘ルヘカラス注意ヲ要ス

(二)目前ノ諸問題左ノ如シ

其一、治安維持

前記提出六条件其三、其四、其五ヲ実行センカ為ニハ先ツ北京警察力ヲ其手ニ収メサルヘカラスルヲ以テ張作霖ノ最モ努ムル所ニシテ昨二十八日来奉天軍所属憲兵ヲ特派シ逐次北京駐在憲兵ト交代セシメ武装解除ト其兵ノ解散、逃亡者ノ引渡ヲ強要シ概シテ其目的ヲ達シ尙徐樹錚、丁士源ノ

ル機ニ乘シ督軍ノ力ヲ借りテ其目的ヲ達センコトニ努力シツツアリトモ伝ヘラル徐總統ニ旧約法ヲ止メ新約法ニ依ラントスル意志アルハ事実ニシテ去ル六月三日小官会見ノ節明カニ真意ヲ洩セリ

其四、南北和議問題

直隸派督軍等カ勢力ヲ得タル今日上海會議ノ開カルルハ当然ニシテ前記六条件ニ明記シアルモ万事国民會議ニヨリテ決セントスル意嚮ナルハ蓋シ案スルニ難カラス然レトモ其實行ハ決シテ容易ナラサルヘシ又彼ノ軍政府ハ其勢ヲ四川ノ重慶ニ集メテ之ニ蟠踞セントシツツアルノミナラス其所謂直隸派督軍トノ一致ヲ見ルヤ否ヤ疑問ニシテ若シ夫レ北方督軍ノ一致ヲ見得ヘクンハ先ツ陸榮廷等実力派結合ニヨリテ南北和議ノ機運ヲ醸成シ得サルニアラス故ニ彼等ハ上海會議存続ノ必要ヲ認メサルヘシ

其五、復辟問題

時局解決ノ一法トシテ旧官僚等カ脳裡ヨリハ未タ一日モ離ルヘカラスルモノハ復辟ナリ、徐總統初メ張作霖、陸榮廷、周樹模等未タ必ズシモ其不可ヲ言ハス唯時機ニアラスト言フノミ但シ今後張作霖、陸榮廷等ノ声望大ニ失墜シ願

宅所ニハ家宅搜索ヲ強行スル等惡辣ナル行為ヲ發揮シテ後京畿警察總監ノ更迭アリテ直隸派ノ手先ニテ北京城外ニ駐屯シタル兵卒ハ三伍々城内ニ潜入シ何等カノ動機ヲ利用シ掠奪行為ノ勃發スルコトナキヲ保スヘカラスル狀況ニアリ

其二、内閣問題

大總統ハ周樹模總理案ヲ提出シ來ル三十日衆議院ニテ議スヘキ予定ナルモ法定員數ニ滿タサルコト明ナル今日結局各部総長ト共ニ等シク任命セラルルナラン靳雲鵬ハ陸軍総長タルヘキ交渉ヲ受ケタルモ斬個人トシテハ山東督軍田中玉ヲ適當トスルモ王楨廷ヲモ擬シツツアリ

直隸側即チ保定側ニテハ南京督軍李純ヲシテ總理タラシムヘントノ意見ヲ提出シ要スルニ大總統文官タルノ故ヲ以テ(五字不明)決定シ前途ヤハリ武官出身者ヲ以テ總理タラシムヘク説キタルヘキモ是等ハ皆副總統問題及督軍交迭ノ伏線ニシテ結局ハ曹張督軍ノ争ヲ見ルヘシ

其三、約法問題

新旧国会共ニ之ヲ認メス国民大會ニテ之ヲ決セントスル意嚮ナレトモ徐總統ニ私ニ袁世凱ノ新約法即曹張ノ入京シタ

ミラレサルニ至ラハ兎ニ角何等近キ將來ニ於テ決行ノ運ニ至ラサルヘシ

其六、國債整理ト財務救済問題

今回拳事ノ首魁ト目セラルヘキ交通總長曾毓雋ハ安福派兼ネテ私ノ為ニ政府就交通部ノ官金ヲ費消スルコト其幾何ナルヲ知ラス或ハ三千万元トモ謂ヒ此整理ヲ誤魔化サンカ為ニ無理ニ今回ノ戦乱ヲ惹キ起サンメタリト謂フハ蓋シ真理ナリ而シテ其整理ノ能否如何ニ論ナク今回動乱ノ善後ヲ策セントスルヤ直ニ金員ヲ要スルコト明ニシテ借款問題ノ起ル又必然タリ帝國ハ之ニ對シ何等カノ覚悟ナカルヘカラス

其七、段祺瑞及段派ノ将来

坂西極秘電第四二号ノ二三述ヘシ如ク段祺瑞ハ外界ノ空氣ヲ吸ハス唯單ニ其左右陰謀者ノ言ニ魅セラレ今回ノ如キ血迷ヒタル行動ヲ執リ失敗セルモ未タ彼カ共和ノ首唱者兼恢復者タルノ声望ヲ没スルニ至ラス唯利己本位ニシテ成功ヲ急キタル陰謀家安福派首領ハ天罰ヲ受ケタルモ段派ハ未タ必スシモ絶滅スルニ至ラス安福派首領必スシモ親日派タラサル如ク段派必スシモ親日ヲ代表セス要ハ帝國政府及帝國

人民ノ間断ナキ努力ニヨリ陰謀機略ヲ用ユルコトナク共存
共益主義ノ徹底鼓吹ニヨリ親日者ヲ作ラサルヘカラス残存
セル段派素ヨリ無勢力ナルモ尚ホ将来ヲ有スルモノト見ル
ヲ可ナリトス

其八、排日問題

今回ノ事変ニ際シテ帝国カ絶対的沈黙態度ナリシ為英米仏
就中米国人カ稍露骨のニ直隸軍庇護ノ意ヲ表シタルハ屢々
天津駐屯軍ノ報告ニテ之ヲ認メラルル所ニシテ仏公使亦若
干ノ活動アリ頗ル遺憾トスルモ既往ハ追フヘカラス是等ハ
彼等トシテ寧ロ当然ナルヘク而シテ段派ノ失脚ハ所謂日支
軍閥連絡ノ標題ヲ掲ケテ排日ヲ鼓吹スヘキ好材料ヲ失ヒタ
ルモ今後ハ彼等専ラ山東問題ニヨリテ排日機運ヲ煽動スル
ニ至ルヘク次ニ懸念スヘキハ帝国政府及帝国人民ノ張作霖
及東三省ニ対スル態度如何ニアリテ忽チ山東問題ト共ニ侵
略的野心ニ利用セラルルコトナキニアラス今日之ノ曹、
陸、章三人ニ対スル処分ハ寧ロ反对者ノ陰謀ニテ排日ヲ意
味スルモノナルヲ以テ大總統ヲシテテ寧親切ニ其冤罪タル
所以ヲ諒解セシムルノ手段ヲ取ラシムルヲ要ス且又個人の
生命ノ安全ニ対シテハ人道上ノ見地ヨリ国際法ノ許ス範圍

配下ニ立ツノ汚辱ヲ蒙ルニ至ルヘキ所以ヲ了解セシメ排日
ノ無益ナルヲ悟ラシムルヲ要ス

(四) 边防軍ニ対スル吾人ノ期待ハ段カ小官ノ忠告ヲ用ヒサリ
シ為今ヤ中途ニシテ根底ヨリ顛覆セラレタリ而シテ張作霖
曹錕等カ一時的ナリトモ中央ニ勢力ヲ振ヒ(八字不明)寧
ロ事實ニ於テ退歩シ一ツニ吾人ノ希望ヲ容レシムルハ恐ラ
ク困難ナルヘシ依テ此機ヲ利用シ彼ノ排日者ノ標題タリシ
日支軍事提携ノ無実ナルヲ宣伝シ大ニ——ナスヲ得策
ナリト信ス

(六) (十二字不明) 即チ段祺瑞ノ勢力減退安福派ノ覆滅ハ必
スシモ段派ノ全滅ヲ意味セス安福派ノ繁盛ハ必スシモ親日
派ノ全盛ニアラス(十四字不明)ニハ親米、英、仏全盛ヲ
来スヘシ要ハ彼ニ非スシテ我ニアリ即チ不偏不黨責任アル
支配者ノ正当ナル希望ヲ看破シ共存共栄ノ本旨ニ基キ精神
的ト物質的トヲ問ハス誠意以テ之ヲ援助シ彼等ヲシテ今回
ノ如ク誤ラシメサル迄ノ權威ヲ吾々ニ於テ保持セシムルヲ
以テ必要ナリトス今次政変ヲ見テ殊ニ此ノ感ヲ覚エタリ

(欄外註記)

(終リ)

ニ於テ官民挙リテ絶対的ナル援助ヲ与ヘ我國民ノ義俠心ヲ
發揮スル様セララルルヲ望ム

東三省及山東省ニ於テハ最モ公正ナル態度ヲ保持シ就中東
三省ニテハ断シテ我ヨリ張作霖ノ御機嫌ヲ取ルカ如キコト
ナカラシメ彼ヨリ我ニ頼ラシムル様官憲、滿鉄其他金融機
関等ヲシテ既得權利ノ実行並ニ經濟的事業ニ対シテハ毫モ
遠慮スルコトナク我官民ヲシテ共謀共益ノ本旨ヲ失ハシメ
サル如ク着々其歩武ヲ進メシム

(三) 中央政府ノ確立ハ内外ヲ通シテ其成立ノ速カナランヲ希
望シ今後政変ノ善後策トシテ当然起ルヘキ問題ニ対シテハ
借款團ノ名義ヲ以テスルト否トニ論ナク予メ少クトモ一千
万円位ヲ準備シ一旦形式ノ備ハルト共ニ直ニ之ニ応スル意
思ヲ明確ニ示シ支那時局收拾ノ為ニハ帝国ハ英米仏等ノ為
シ能ハサル犠牲ヲモ辞セサル所以ヲ明ニシ常ニ優秀ナル權
威ヲ維持スルニ努ムルヲ要ス

(四) 我カ官民ヲシテ支那ニ於ケル文化的及社會的事業ニ対シ
誠意アル精神の若クハ物質的中堅トナサシムル如クシ同時
ニ有力ナル宣伝機關ヲ設置シ支那人ヲシテ普ク日支共存共
栄ノ本義ヲ守リテ誘導スルニアラサレハ支那ハ忽チ米人ノ

「何故ニ日支軍事協定即時廢棄、边防軍トノ關係断絶乃至不
要ノ軍隊及武官ノ撤退ヲ呼号セサルヤ単ニ臨機応変ノ自家ノ立
場擁護論ニハ信頼シ難シ(塩原次官)」

三七五 七月二十九日

東在中國日本公使館附陸軍武官ヨリ
上原參謀總長宛(電報)

日本ノ对中国政策ニ就イテ意見上申ノ件

支那五六二極秘電 (八月三日外務省写接受)

対支政策意見

大總統ノ心中ニ何等親日的態度ヲ認メ得ザルコトハ講和會
議ニ於ケル小刀細工ヲ始メトシ山東還附交渉ニ於ケル態度
排日學生取締ニ対スル態度等ニテ明白ナリ況ンヤ之ヲ助ク
ル周囲ノ人物ノ多クカ親英、親米、親仏(電文不明)ナル
ニ於テヤ如何ニ苦慮スルモ真ノ日支親善ハ到底當分希望
シ難カルヘシ而シテ如此惡結果ヲ生シ来レル原因ヲ討究ス
レバ畢竟我政策カ優柔不断ニシテ毫モ所謂畏レテ親シムヘ
キ希望ヲ占メ能ハズ支那人ヲシテ愛想ヲツカサシメタル結
果ニ外ナラズ昨年五月四日ノ暴動以來排日氣勢支那全国ニ
瀰漫スルモ帝国ハ只列強ノ鼻息ヲ窺ヒテ戦々恟々トシ親日
派ヲ救ハズ排日党ニ対シテモ徹底的取締ヲ要求シ得ズ敵味

方ヲ通シテ日本程腰抜ハ無シ(電文不明)ト思ハシメタル
コト其一ナリ日本ハ英米ニ對シテハ手モ足モ出シ得ズ英米
ノ袖下ニ隠ルレバ如何ナル排日モ容易ナリト見縊ラレタル
ハ其二ナリ蓋シ自ラ為セル罪ナリト謂フノ外ナシ

三七六 八月十四日 在漢口瀨川總領事ヨリ
内田外務大臣宛

安直兩派衝突ノ原因及日本ノ援段政策ニ関ス

ル報告書送付ノ件

政機密第三四号

(八月二十六日接受)

大正九年八月十四日

在漢口

總領事 瀨川淺之進(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

今回ノ政争ニ関シ本官氣付ノ儘直隸安徽兩派衝突ノ原因及
我帝國ノ援段政策ニツキ別紙報告書作成何等御参考迄ニ茲
ニ差進候間御査閱相成度此段申進候也

本信写送付先

北京、広東、上海、南京、長沙、天津

(別紙)

直皖兩派衝突ノ原因及日本ノ援段政策ニ関スル報告

第一次革命ノ初ニ当リ政治的ニ復活セル袁世凱ハ日清戰爭
後自己ノ養成訓練セル北洋軍ヲ統一シテ之ヲ管掌シ一面革
命党ニ聯絡シテ清朝ヲ傾倒シ遂ニ民國ノ最大勢力家トナレ
リ其五年半ニ亘ル民主專制の統治期間ニ在リテハ段祺瑞馮
國璋以下北洋軍閥等ハ能ク袁ノ勢威ノ下ニ統括セラレ未タ
直皖ノ系統別ヲ生スルカ如キ事ナカリキ蓋シ李鴻章ノ直隸
總督時代ニ在リテ天津武備学堂出身者ハ其出身地ノ直隸省
タルト河南山東省タルトヲ問ハス何レモ安徽派ノモノト概
稱シ居タルモノニシテ其後袁世凱時代ニ在リテ始メテ安徽
系直隸系ノ名称アリシモ袁ノ勢力ニ統一セラレテ兩者其頭
角ヲ現ハスコトナカリシ而シテ袁ノ死後ニ至リ馮段互ニ直
皖兩系ノ領袖トナリタリ段ハ馮トハ其人物性格ヲ異ニシ均
シク袁門ニ輩出セル俊髦ナリシモ終始其態度行動ヲ異ニセ
リ即チ段ハ勇斷果決ニ富ムモ直情徑行ニシテ政治家ト云ハ
ンヨリモ寧ロ武將ノ風格アリ馮ハ其風貌ハ円満ナルカ如キ
モ頗ル狡智ニ長ケ居レリ袁カ馬廠ニ於テ北洋練兵ヲ始メシ
以來段ハ常ニ陸軍學校長將校生徒隊長等直接北洋軍ノ編練
ニ当リシモ馮ハ主トシテ參謀ノ如キ地位ニ在リ段ハ飽クマ

テ袁ノ指令ヲ受ケ支那陸軍ノ創辦事務ニ忠勤ヲ擢ンテタル
モ馮ハ滿清親貴ト結托シテ軍事諮議府等ニ入り袁ニ絶對服
從ヲ欠ケリ如斯馮段ノ對袁感情ハ前清時代ニ於テモ濃薄ノ
差アリ第一革命ノ際ハ馮ハ第一征討司令トシテ漢口ノ燒打
チヲナン飽クマテ武漢ニ於ケル革命軍ノ根拠ヲ覆サント力
戰シツツアル時袁ハ段以下四十余將ニ旨ヲ含メ清室ノ退讓
ヲ迫ラシメタルモ馮ハ當時ノ退位請求ノ連判狀ニ署名シ居
ラス袁カ第一次大總統タリシ以來段ハ常ニ中央ニ在リテ袁

ノ統一事業ヲ助ケタルモ馮ハ直隸都督トナリ第二次革命ヲ
經テ江蘇督軍ニ遷サレ次第二中央トノ縁遠サカレリ

袁ノ帝制ニ對シテハ段モ馮モ無形ノ反對ニ出テタルモ其反
對ノ精神ニ到リテハ兩者大ニ異ナレリ即チ段ハ清室退讓ヲ
迫リタル連判者ノ筆頭トシテ袁ノ帝制ニ賛成セス西山ニ隱
棲シテ世事ト遠サカリ以テ政治家ノ清節ヲ全フシ恩顧アル
袁氏ニ背カサルモノトセリ馮ニ在リテハ然ラス彼ハ袁ノ帝
制説伝ハルヤ入京シテ袁ニ帝制希望ノ有無ヲ訊問シ其之レ
無キヲ云フヤ馮ハ帰寧之ヲ發表シ袁ノ帝制準備カ漸次進行
スルモ我不関焉ト空囁キ蔡鍔カ雲南ニ抛リ護國軍ヲ起シヤ
馮ハ陽ニ中立ヲ標榜暗ニ是レニ聯絡シテ長江沿岸ニ於ケル

帝制反對熱ヲ助長シ袁カ大正六年六月五日帝制失敗ニ依リ
悶死スルヤ袁ノ帝制ニ對シ暗々裏ニ反對シ民党系ニ好感ヲ
買ヒタルヨリ旧国会ノ副總統選舉ニ甘々ト當選シ江蘇ヲ李
純ニ讓リテ入京セリ黎元洪ハ副總統ヨリ代行總統トナリ段
祺瑞ハ國務總理トナリ茲ニ段ト馮トハ其地位異ナルモ共ニ
中央政界ニ立ツニ到レリ而シテ數次ノ政変ヲ經テ段馮兩者
ヲ各領袖トシテ北洋軍閥間ニ直皖兩系ノ派別ヲ生スルニ至
レリ

袁世凱ノ帝制ニ對シテ日本ハ反對ノ地位ニ立チタリ袁ノ失
敗ハ支那ノ大勢ノ然ラシムル所トハ云ヘ日本ノ反對蓋シ大
ニ与リテ力ヲ為シ遂ニ袁悶死ノ動機ヲナセリ然リ而シテ袁
死後ニ於テ当然更新確立セラレサル可カラサリシ我對支方
針ハ援段政策ナリ換言スレハ袁世凱ノ把持統括セシ北洋兵
権ノ相繼者ハ袁ノ指令ノ下ニ直接北洋軍ノ編練ニ從事セシ
段祺瑞其人ナリトシ甚タシキニ到リテハ段ノ訓練セシ北洋
軍人及軍隊ノ數額ヲ計量シ今後支那ノ軍權ハ段ニ帰屬スル
ノミナラス袁ハ段及馮等ニ依リ間接ニ兵權ヲ統括セルモ袁
死後ニ於テ段ハ直接北洋軍ニ号令スル地位ニ立ツヲ以テ寧
ロ袁ヨリモ優勝ノ地位ヲ占ムヘシ少クトモ今後數年間ハ支

那ニ段時代ナルモノヲ實現スヘシ段ハ國務總理ナルヲ以テ段ヲ助ケテ支那ヲ統一セシムルハ支那國民ヲ援助スルニ相當ス蓋シ國務總理ハ國民ノ代表者ナルヲ以テナリ云々トノ議論當時我軍閥方面ヨリ盛唱セラレタルカ是レ恐ラク援段政策ナルモノノ發源ナリシモノト觀測セラレタリ

焉ゾ知ラン當時支那ノ大勢ハ頗ル雜駁乍ラモ民治思想勃發セント欲シ加フルニ袁世凱ハ帝制ノ野心ヲ滿タサンカ為ニ各省督軍ニ向テ中央ニ於テ対外对内ノ重要問題起ル毎ニ其意見ヲ徵シ以テ彼等ノ敏心ヲ買フニ努メ漸次軍人干政ノ弊端ヲ啓キ一面各省督軍（北洋系）師長級ノモノヲ任命シ居リタルヲ以テ督軍ハ一度得タル自己ノ地盤ヲ堅持スル為メ其軍隊ヲ伴ヒテ莅任シ此等軍隊ノ心理状態ハ名義ハ中央直轄ナルモ其督軍ノ私有物タルカ如キ感情ヲ生シ居リタルヲ以テ各省督軍ニ徹底的号令ヲ下シ得タリ袁ノ存命中ハ各軍中央ノ命ニ依リ動キシモ其死後ニ在リテ北洋軍ノ中央集權ハ当然各省督軍ノ分割ニ歸スヘキ運命ニ在リタルモノナリ段ト謂ヒ馮ト云フモ當時ノ北洋系督軍ヨリ見ル時一頭地ヲ抜キタル人物ナルモ袁門ニ養ハレタル同僚ナリ馮ハ段ノ願使ニ甘ンスヘキ程ノモノニアラス如斯状態ニ在リシヲ以テ

袁ノ死後復袁無ク袁ノ所有セシ北洋ノ軍權ハ徹頭徹尾地方分權のニ發展スヘキ形勢ニ在リタルモノナリシナリ

然ルニ我カ対支政策ハ援段主義ヲ以テ進ミ段氏ノ武力征南策始マルヤ内政不干渉南北一視同仁主義日支親善等ヲ標榜スル一面ニ於テ實業磁業發展又ハ開拓ヲ名目トシテ露骨政策行ハレ中央政府ニ於ケル段派ノ勢力ハ隆々トシテ發展シ同時ニ我國ハ巨額ノ投資ノ代償トシテ幾多ノ利權ヲ獲得シ政治經濟のニ列強ノ首位ニ列スルノ盛況ヲ呈セリ蓋シ歐戰正ニ酣ニシテ歐米東顧ノ違ナキ絶好ノ機會ニ優勝ノ地位ニ処セシニ依ル所多シトスルモ亦援段政策ノ賜ナリシハ論ヲ俟タス

然ルニ袁死後ニ於テ段ヲ北洋軍權ノ繼承者ト認メ段一度号令セハ北洋軍ハ手足ノ如ク働キ支那ノ武力的統一立所ニ成ルモノトノ我軍事当局者ノ打算ハ大正七年五月即チ袁ノ死後一年ナラスシテ見事ニ打破ラレタリ袁ノ死後西南ハ段氏ヲ約法ノ蹂躪者トシテ護法靖國軍ヲ挙ケ分裂状態トナリシヲ以テ直隸派ノ曹錕中間派ノ張懷芝及ヒ段派タル張敬堯ヲシテ征南軍ヲ統率セシメ所謂武力統一策ヲ進メタリ曹錕ハ第一路總司令ノ印綬ヲ帶ヒ第三師長タル吳佩孚ヲ總指揮ト

シ陸統直隸軍ヲ南下セシメ吳ハ先ツ第三師ヲ率イテ河南許州ヨリ南陽ヲ経テ襄陽ニ出テ黎天才ヲ討伐シ岳州戰ノ右翼線ニ活動セリ張敬堯ハ第七師ト混成一旅ヲ率イ武岳線ニ沿フテ進メリ當時ノ戰況ヲ親シク視察セル所ニ依レハ直隸軍第三師ヲ始メトシテ混成四個旅及補充二旅共ニ軍備充実シ訓練能ク行キ届キ軍紀モ亦能ク保タレ居リタルモ張敬堯ノ軍隊ハ第七師ノ約半数ヲ除ケハ其他ノ混成旅ト共ニ張勳ノ散兵ニアラサレハ北江蘇山東河南方面ヨリ新召セル土匪ニシテ紀律廢類シ訓練モ亦充分ナラス加フルニ張敬堯以下幹部幕僚兵卒ノ末ニ到ルマテ煙癮浸潤シ屢次馬濟ノ率イル広西軍ニ悩マサレ居レリ岳州ノ攻略ハ其大半ノ功直隸軍ニ在リタルハ目撃者ノ証明スル所ナリ而シテ當時段氏ハ五十万金ヲ懸ケテ岳州ヲ攻略セシメタルカ其兵數ニ於テ張敬堯軍ニ二倍シ其功勞ニ於テ遙ニ張軍ニ優勝セシモ張敬堯ハ當時北洋全軍ノ前敵總指揮ノ地位ニ在リシヲ以テ賞金ハ張氏ノ自由ニ分配セラレタリ而シテ此岳州戰ヲ期トシテ棄戰主和ハ當時ノ代行總統タル馮國璋ノ旨ヲ含メル李江蘇督軍ニ依リ提唱セラレ長江督軍モ亦唱和セリ然ルニ段氏ハ極力徹底の武力征南策ヲ主張シ馮代行總統ニ強要シテ湖南克復戰ヲ

統行スルノ承允ヲ得再ヒ賞ヲ懸ケテ長沙ニ進攻セシメタリ此時征南軍ニ參加セル直隸系ノ李奎元ハ吳佩孚ト共ニ全ク張敬堯ノ軍トハ聯絡ヲ絶テ单独長沙ヲ指シテ一直線ニ進ミ沮喪セル南軍ヲ逐フテ七年四月ニハ長沙ヲ恢復セリ其先頭部隊ハ李奎元ノ第十一師ニシテ吳佩孚之ニ次ケリ南軍ハ衡山衡陽ノ險要ヲ退守シ長沙ノ安全ヲ期シ難カリシヨリ吳佩孚ハ部下ヲ率イテ南進シ五月二十五日衡陽ヲ陥入レタルト共ニ俄然其態度ハ一変セリ

是ヨリ先キ張敬堯ハ予テ段氏ト約アリシヲ以テ長沙ノ恢復セラルルト共ニ湖南督軍ニ任セラレタリ蓋シ段氏ノ徹底的武力征南策トハ當時湖南広西広東雲南貴州等ノ聯合軍ヨリ成ル南軍カ屈服シテ西南各省カ独立ヲ取消シ北京政府ノ命令ヲ奉スル迄征戰ヲ進ムルノ計策ナリシモ馮國璋代行總統トナルヤ岳州攻略戰サヘ懸賞附キニ漸ク進歩シ岳州攻略後抬頭セントセシ棄戰主和ハ辛フシテ馮氏ト意思ノ疏通ヲ凶リ長沙克復戰ヲ進メタルモ長沙奪回セラレ其掩堡タル衡陽ノ險要ヲ取り一方張懷芝ノ第二路軍ハ湘東方面ヲ第一路軍ト共ニ併進セルモ南軍ハ永州方面ヲ退守シ容易ニ屈服セス直隸軍ハ長沙克復ノ後ハ断然棄戰主和ニ從フノ態度アリシ

ヨリ段氏ハ七年五月二十日頃態々漢口ニ来リ查家墩ノ総司令部ニ曹錕ヲ訪ヒ征南統行ヲ懇望シ曹ハ敢ヘテ反對ヲ正面ヨリ云ハサリシモ病ニ託詞シ保定ニ帰ラン事ヲ請ヘリ其實ハ當時進行中ナリシ衡陽攻略戰ヲ最後トシテ段氏如何ニ強要スルモ断然棄戰主和ト決定シ居レルハ段氏着漢數分前曹錕及曹銳ノ明言セシ所ナリ斯クテ段氏ハ漢口ヨリ南京ニ繞リ李純ト接洽シ北帰セルカ曹ハ段ノ帰北ト數日遅レテ大總統ニ一片ノ電報ヲ寄セタルノミニテ病氣ニ託詞シ保定ニ帰レリ其後段氏ハ曹ヲ四省経略使ニ任シ吳ヲ孚威將軍ニ任シ征南統行ヲ懇請セルモ曹ハ意ニ介セサルモノノ如キ態度ヲ持シ吳佩孚ハ五月二十五日衡陽陥落ト共ニ部下旅長幕僚等ヲ集メテ棄戰主和ヲ決議シ衡山出身者タル第三旅長蕭耀南其他南軍趙恒惕ト同学タル參謀某ヲ介シテ南軍ト親和策ヲ計リ中央ノ命令ハ毫モ奉セズ昨日マテ敵對行為ヲ取リシ南軍ニ米塩燃料ヲ贈リ界線守防ノ約ヲ結ヒ遂ニハ相互来往スルニ至レリ

如斯直隸軍カ段氏征南ノ命ヲ奉セス曹ハ擅ニ保定ニ歸リ吳佩孚ハ単独南軍ト親和シ公然棄戰主和ヲ通電シ段氏ノ政策ニ背叛スルニ至レル動機ハ種々アル可シト雖モ當時吳佩孚(ス)孚威將軍ノ虚銜何物ヲカ価セン段氏ノ為ニ犬馬ノ勞ヲ致スモ何等ノ効果ナントシ張敬堯ノ唯前敵總司令ノ名アリシノミニテ些シタル功勞モ無ク湘督タル事ヲ得タリシヲ嫉視シ憤慨セシ事其態度ヲ一變セシメタル直接主要ノ動機ナリトス蓋シ張敬堯カ徐州ヨリ北京ニ到リ段氏ヨリ湘督ノ予約ヲ受ケ征南戰ニ從事セルモノナリシハ當時一般周知ノ事實ニシテ段氏今日ノ失敗ハ武力征南策ニ最モ功勞アル吳佩孚(直隸軍)ヲ湘督タラシメス陝西福建湖南ニ段系ノ軍閥ヲ擢用シ其後浙江ニモ自派ヲ配シ益々安徽系ノ勢力ヲ發展セシメントセシ事カ則チ直隸系ヲシテ南方ト聯絡シ段派倒滅陰謀ニ團結セシムルニ至リタルモノナルヤ疑フノ余地ナシ

△安福系ノ稅政ト吳佩孚ノ蹴起反對

段氏ノ袁死後ニ於ケル民国ノ第一人者タルハ何人ニモ異議ナシ然レトモ其麾下ニ參集セル軍政兩方面ノ人物ヲ通觀スルニ袁氏ノ政策カ對外的ニハ遠親近攻ノ傳統的計策ニ出テ對内的ニハ專制の中央集權ニシテ其失敗カ主トシテ日本ヲ疎外セシニ在リシニ鑑ミ親日の中央集權策ニアリシ如ク思ハレ主トシテ新進ノ留日出身者ヲ集メ均シク俊才秀逸ヲ網

ノ麾下ニ在リタル者ヨリ親シク聽ク所ニ依レハ概ネ左ノ如シ
一、段氏ハ日本ノ援段政策竝ニ支那ノ參戰ト共ニ日支軍事協約ヲ結ヒ日本ヨリ巨額ノ借款ト軍器トヲ得大規模ノ編軍計畫ヲ進ムルト共ニ安福俱樂部ナル大政黨ヲ組織軍政兩界ニ亘リ勢力壟斷策ヲ講究シ居レリ若シ今後尚段氏ノ願使ニ甘シシ征南戰ニ從事スル時ハ徒ラニ段氏ノ勢力ヲ膨張セシムルノミニテ直隸軍ハ何等ノ得ル所ナク広西廣東ヲ征服スルコト難事ニアラサルモ勞シテ酬ヒラルル所ナキノミナラス狡兔死シテ走狗煮ラルルノ憂目ニ會セントノ勢力的嫉妬心

二、第三革命(袁ノ帝制反對革命)ノ際征滇軍ヲ率イ四川ニ出動シ滇軍ノ包圍ニ陥リアハヤ全滅ノ非運ニ陥ラントシ漸ク馮玉祥軍ノ力戰ニ依リ救出セラレ危地ヲ免ルル事ヲ得タル第七師長張敬堯ハ歸來格別ノ功勞無キニ四省剿匪督辦トシテ徐州に駐紮シ訓練熟セス紀律正シカラサル雜駁ノ軍隊ヲ率イ征南軍前敵總司令ノ榮職ニ就キ殆ト直隸軍ノ力戰シテ得タル湖南省ニ督軍ノ榮位ヲ贏チ得タリ(馮玉祥ノ如キハ直隸軍ナルカ故ニ今尚旅長タルニ過キ

羅セシモ其多クハ年少氣銳ノ輩ニシテ智識ニ富メル割合ニ貫禄ト經驗ニ欠ケ居リタルノ嫌アリ段氏ハ征南策ノ停挫ト共ニ國務總理ヲ去リ參戰又ハ边防督辦ノ地位ニ居シ直接國政ノ当事者ニアラサリシモ其党羽タル安福系ハ軍政兩方面ニ亘リ段氏ヲ寧ロ傀儡ノ地ニ置キ愈々勢力壟斷策ヲ計リ現ニ各省政務長官以下各重要職員ハ安福系ニ籍ヲ置カサレハ安福系閥員ノ署名ヲ得ス獵官者ハ入党金ノ名ヲ以テ數萬元乃至數十萬元ノ署名料ヲ支払フ等ノ弊害ヲ生スルニ至レリ現ニ湖北省長財政政務兩庁長官錢局造幣廠長其他ハ悉ク安福系ニ入党セルモノナルカ彼等ハ其地位ヲ得ルノ方便トシテ夫々數万乃至數十萬ノ入党金ヲ納メ居レリ安福系タル張敬堯ノ湖南督軍トシテノ惡政ハ今日失敗者タル彼ニ對スル惡声ヲ悉ク信スル能ハサルモ其任官中ヨリ到底地方官トシテ省民ノ悅服スルカ如キモノニアラサリシ先ツ張ハ湘督タルト共ニ長沙ヨリ北京ニ到ル專用電信線ヲ架設シテ橫暴振リヲ發揮セリ第七師ノ一半補充旅及暫編旅ノ如キ徐州方面ノ土匪又ハ張勳ノ殘兵ヲ驅リ集メタルモノニシテ其幹部及下級將校ニ至ルマテ悉ク第七師ノ將卒ヨリ拔擢充用セルモノナリ其義子タリシ張繼忠ノ如キ毛鴻恩ト稱スル徐州方面

ノ土匪ノ頭目ナリシヲ張ニ懐柔セラレ其義子トナリ居ルモ張カ湖南ヲ失敗シテ湖北ニ来ルヤ張繼忠ハ直チニ原名ニ復シ張ヲ去ッテ王占元ニ服從セントセルモ王ハ之ヲ拒絕シ其軍隊ハ解散セリ其他張敬湯張敬禹張敬舜等ノ年少無經驗者ヲ旅長參謀長等ノ要職ニ擢用シ総シテ軍政各方面ニ於ケル重要職員ハ概ネ親族ニアラサレハ私人ヲ充用セリ賄賂中飽ノ弊竇蔓延シ其軍隊ノ無紀律ニシテ掠奪強索ノ盛行セシヨリ単ニ湖南人ノ蛇蝎視セシノミナラス在湘各人ヲシテ擧蹙セシメタリ吳佩孚湘南撤退後其數額約五個師團ニ相当スル兵力ヲ有シ乍ラ僅ニ期月ナラスシテ實力二個師團ニ過キサル湖南軍ニ庄迫セラレ最モ見苦シキ敗亡ヲ遂ケタル如キ其原因種々アルヘント雖モ其主要ナル原因ハ湖南政府及其軍隊カ上ハ張敬堯ヨリ下一雜役ニ至ルマテ煙癖者ヲ以テ滿タサレ紀綱弛廢シ毫モ湖南民ノ悅服スヘキ善政ヲ敷カサリシヨリ一般湘民ハ張敬堯ノ一味ヲ忌嫉スルコト甚シク張ヲ呪咀シ之ヲ驅逐セントスルノ願望ハ過去二年以來須臾モ湘民ノ念慮ヲ去ラサリシカ為ナリ蓋シ湖南民ノ張敬堯及其一味ヲ忌嫌セシハ若干ノ政争臭味ト特ニ熾烈ナル湘民ノ郷土心ニ由ル所アルハ勿論ナルモ湘民及在湘外人等ヲシテ擧蹙

トシテハ現在支那北洋軍中確カニ匹儔スヘキモノナカル可シ然モ彼ハ前清ノ秀才ニシテ武弁一介ノ軍人ニアラス攻岳戰當時其行戦ノ実況ヲ視察セシ所ニ依レハ南軍ニ對シテハ勇敢ニ攻勢ヲ取ルモ徹頭徹尾驅逐戰ニシテ殺戮戰ニアラス人民ノ流彈ニ中リテ死傷スルモノアレハ懇ニ之ヲ弔ヒ勞リ若干ノ恤金ヲ与フル等絲毫モ犯ササル点支那軍隊ニハ珍シキ感ヲナセリ其統帥術ヨリ見ルモ其人物識見ヨリ見ルモ到底張敬堯輩ト同日ニ語ル能ハス衡州ヨリ通電聲明セシ數次ノ宣言湘南撤退ヨリ今日ニ至ル迄ノ言動ハ悉ク光明正大ナリトハ云ヒ難ク現代支那ノ政治的欠陥ヨリ頻繁ニ繰リ返サルル一種ノ政争ニ過キスト雖モ彼ノ段氏ノ背景タリシ安福系ノ勢力壟斷策ヨリ出テタル種々ナル秕政ヲ見ル時日本ノ

セシメタル張敬堯及其部下文武官吏ノ批政ニ負フ所多大ナルハ勿論ナリ吳佩孚大正七年五月末以來衡陽ニ駐紮シ永州ニ在リタル譚延闓及趙恒惕等ノ南方派ト肝胆相照ラスノ仲トナリ現ニ譚延闓等夙ニ張敬堯ヲ驅逐シテ吳ヲ湖南督軍タラシメント欲シ広東軍政府ハ吳ニ湘督ヲ与ヘ譚ヲ省長タラシムル事トシ再三吳佩孚ニ勸誘セルモ流石ニ吳ハ之ヲ承ケサリシモ南方政学会ノ策士等ハ常ニ吳譚ノ間ニ遊說シ現ニ譚延闓一派ハ吳ヲ呼フニ湘督ヲ以テスルニ至レリ吳佩孚ノ人物ヲ見ルニ彼ハ山東省蓬萊県ノ出明治三十六七年頃保定講武学堂ヲ出テ日露戰爭ノ際陸軍部出仕ヨリ袁世凱ノ簡拔ヲ受ケ軍事視察員トシテ東三省ニ派遣セラレ其堪能ナル地理學ト兵術トヲ以テ露軍ノ陣容ヲ探リ間接ニ日本軍ヲ利益セシ事少カラス現ニ第三軍（乃木軍）ノ遼西迂回運動ノ如キ吳佩孚ノ調査製造セシ軍用地図ニ依ル所多シト（當時吳ト同僚タリシ支那人ノ談）其後吳祿貞ノ部團長トシテ吉林ニ駐紮シ當時該地ニ駐紮セシ日本駐在武官守田大佐トハ最モ親交アリシト彼亦親日主義者タリシ時代アリシヲ知ルヘシ親シク吳ヲ其陣中ニ訪ヒ其ノ統率セシ第三師及混成六個旅ノ軍容ヲ見ルニ其軍容ノ整頓シ紀律ノ嚴肅ナルコト將帥

援段政策カ支那側ニ依リ悪用セラレ段氏ノ勢力加ハルト共ニ之ニ附随セル軍人政客カ種々ナル悪業ヲ恣行シ党同伐異ノ弊因ヲ来セル實際ノ結果ニ鑒ミル時此直皖兩系ノ暗闘期間ニ於テ發現セル山東問題軍事協約二十一箇条等ヲ口実トシテ紛岐セル排日風潮ナルモノカ如何ナル動機ニ依リ誘致セラレ如何ナル方面ニ依リ煽動操縱セラレ如何ナル手合ニ利用セラレ此結果トシテ大正六年下半年來（袁ノ死後）日本ノ取レル對支政策ハ有為轉變定リナキ支那ノ時勢ニ對シ如何ナル反響ヲ起セシ乎ハ今日ニ於テ十分玩味スヘキ価値アルモノト信シ本件ノ顛末ヲ記スルコト此ノ如シ